

第8章 高齢化社会や介護について

1. 高齢者や病人看護を女性が行っている現状について

問 24 現在、家庭での高齢者の介護や病人の看護は、多くの場合女性がしているといわれています。あなたはこのことについて、どう思いますか。(○は1つ)

(1) 全体

○「男性と女性が協力して介護・看護をするべきだと思う」が66.8%で最も多く、「仕方がないと思う」が26.1%の順となっています。(図表 8-1)

(2) 性別

○男性で「仕方がないと思う」が28.9%で女性よりもやや高くなっていますが、性別で大きな差はみられません。

▼3-3：期待度数が低いセルがあり検定不能。

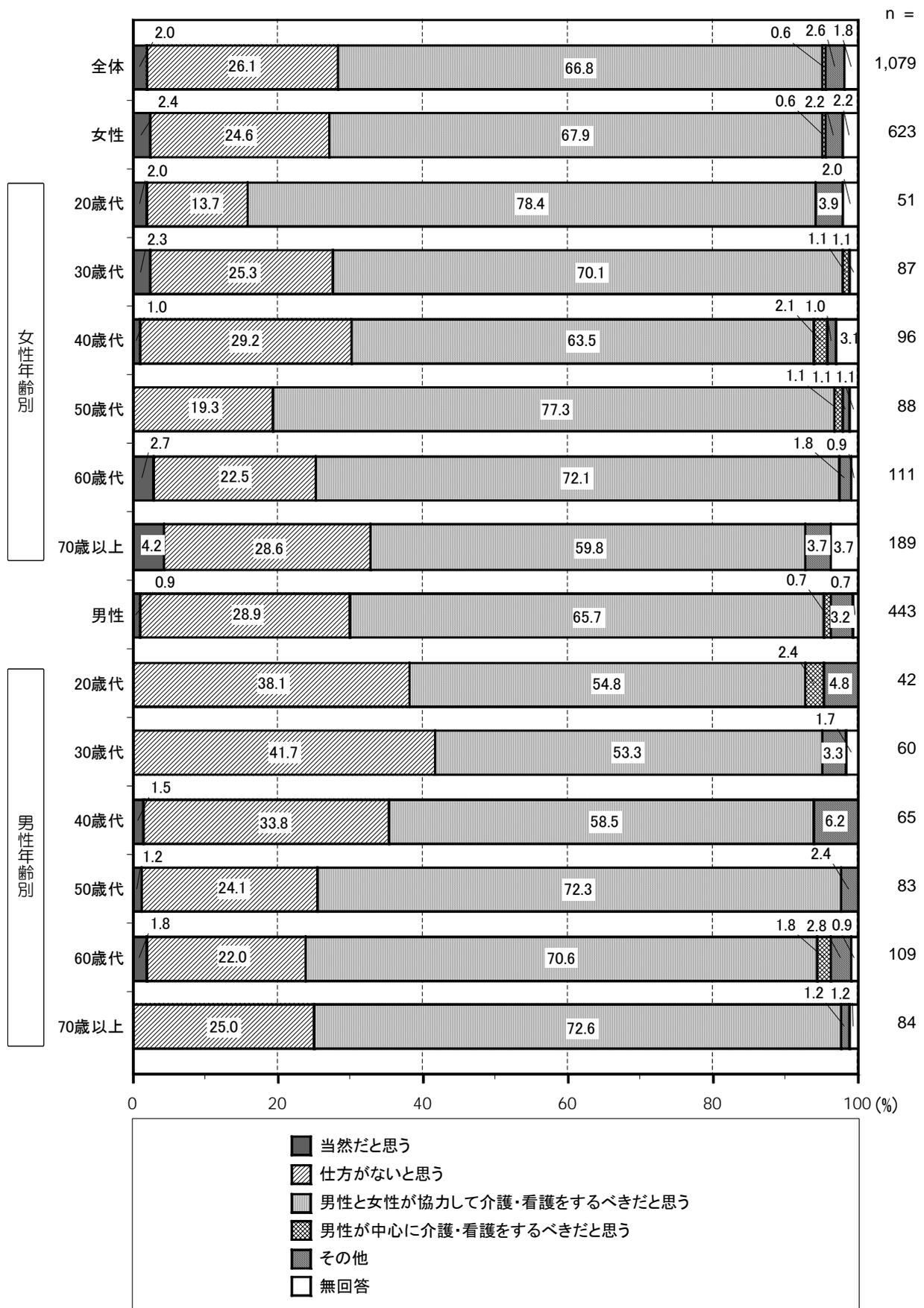
(3) 性別・年齢別

○女性では、20歳代と50歳代で「男性と女性が協力して介護・看護をするべきだと思う」の割合が75%を超えてほかの年齢層よりも高くなっています。

○男性では、20歳代から40歳代で「仕方がない」の割合が33%を超えて高くなっています。

▼3-3：期待度数が低いセルがあり検定不能。

図表8-1 高齢者や病人看護を女性が行っている現状について（性別・年齢別）



2. 自身が老後を迎えるにあたっての不安

問 25 あなたは、ご自分の老後を考えたとき、何か心配事や不安がありますか。主なものをお答えください。(○は1つ)

(1) 全体

- 「自分自身の健康のこと」が34.6%で最も高く、次いで「生活費のこと」が26.3%、「配偶者に先立たれること」が13.7%となっています。(図表 8-2)
- 「介護や看護をしてくれる人がいないこと」が9.7%、「特に不安を感じたことがない」が8.3%となっています。

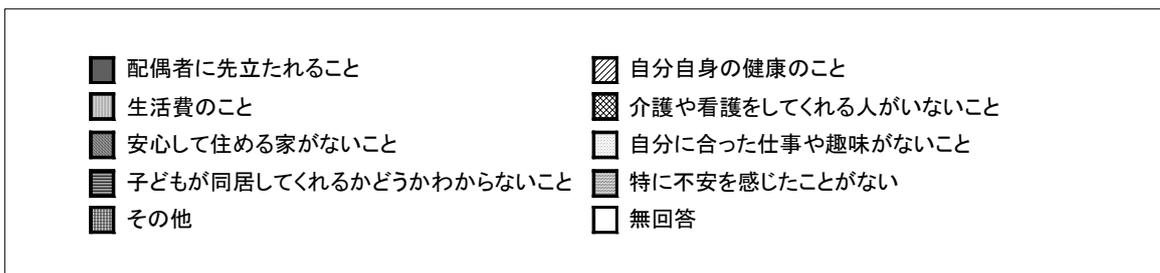
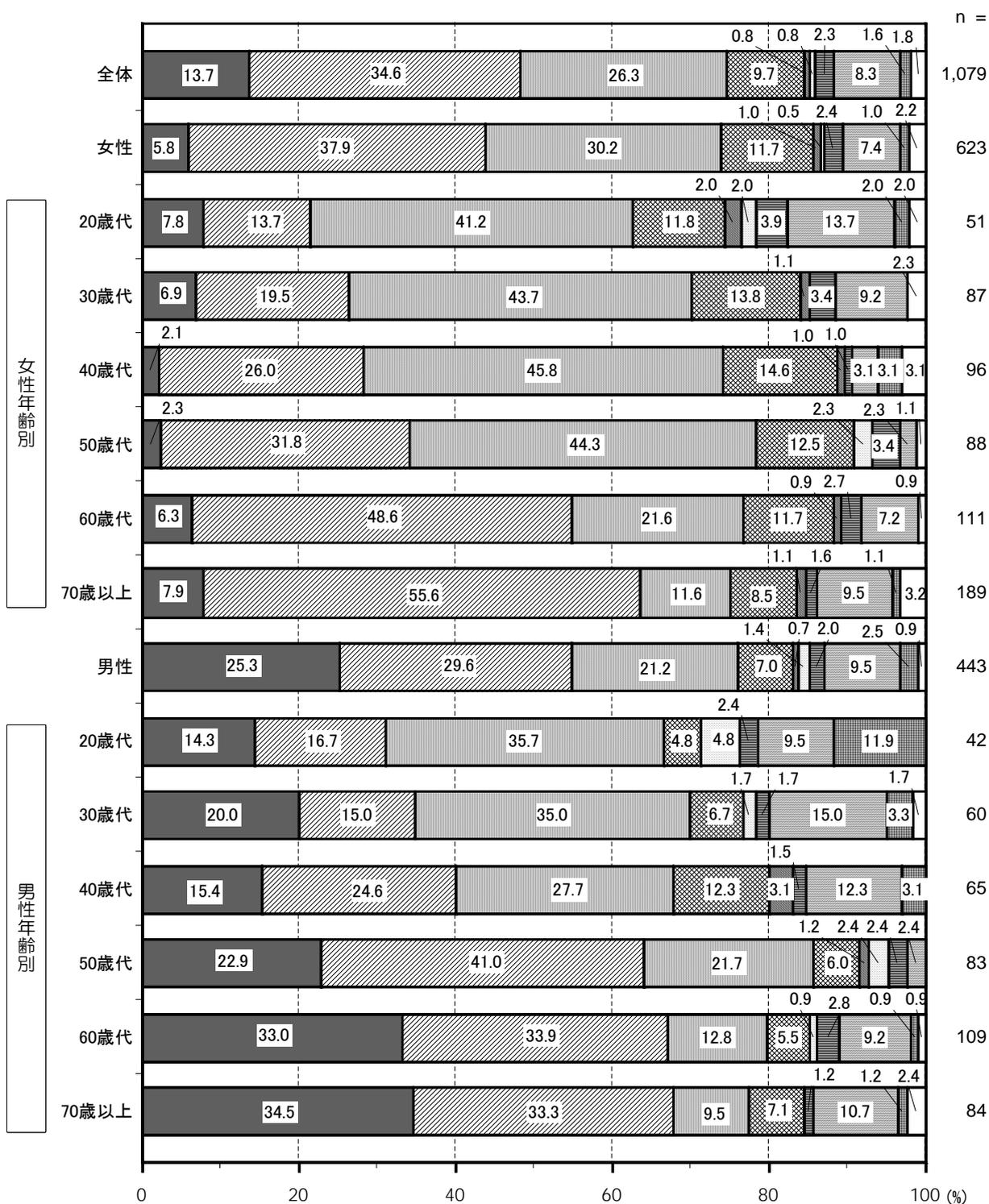
(2) 性別

- 女性では「自分自身の健康のこと」(37.9%)、「生活費のこと」(30.2%)が、男性より1割近く高くなっており、「介護や看護をしてくれる人がいないこと」(11.7%)も高くなっています。
- 男性では「配偶者に先立たれること」25.3%であり、女性の4倍以上のポイントとなっています。

(3) 性別・年齢別

- 女性では「自分自身の健康のこと」は、年齢層が上がるにしたがって高くなっています。また、20歳代から50歳代にかけて「生活費のこと」が4割を超えて高くなっています。
 - 男性では40歳代から年齢層が上がるにしたがって「配偶者に先立たれること」が高くなっており、60歳代からは3割を超えています。
- ▼3-3：期待度数が低いセルがあり検定不能。

図表8-2 自身が老後を迎えるにあたっての不安（性別・年齢別）

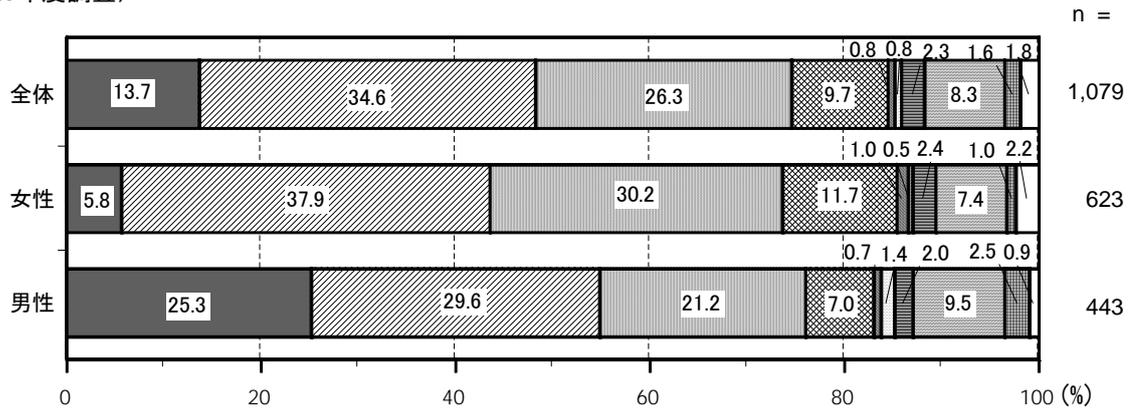


(4) 平成 20 年度調査との比較

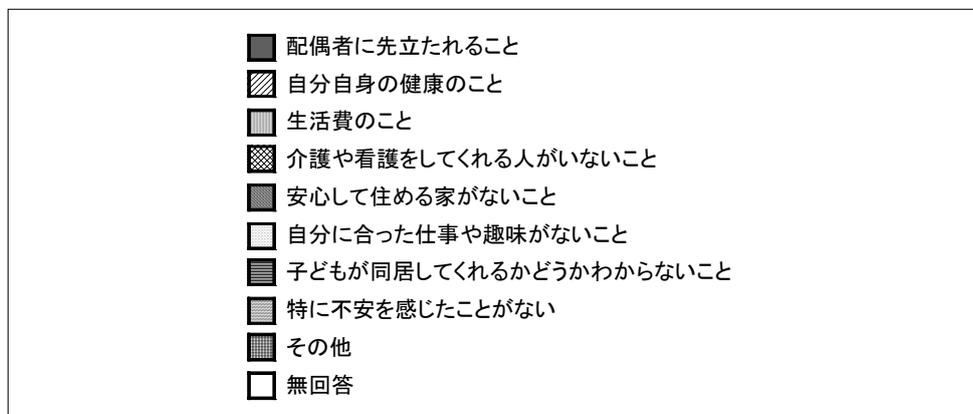
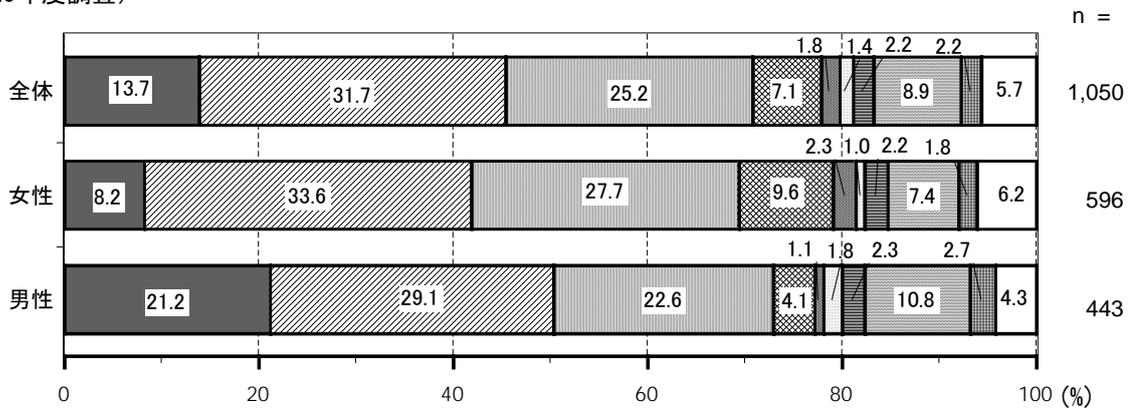
- 本調査では「自分自身の健康のこと」(34.6%)が、平成 20 年度調査よりもやや高くなっています。特に女性では、「自分自身の健康のこと」(37.9%)が、平成 20 年度調査より 5 ポイント近く高くなっています。(図表 8-3)
- 男性では「配偶者に先立たれること」(25.3%)が、平成 20 年度調査からやや高くなっています。

図表 8-3 自身が老後を迎えるにあたっての不安 (平成 20 年度調査比較)

(平成 26 年度調査)



(平成 20 年度調査)



3. 自身の要介護時における身の回りの世話について

問 26 あなたご自身に、介護が必要となったときは身の回りの世話を、どのようにしたいと思いますか。(○は1つ)

(1) 全体

- 「介護保険制度などのサービスを利用する」が 30.8%で最も多く、次いで「介護保険施設を利用する」が 26.2%となっています。(図表 8-4)
- 「わからない」が 17.5%、「配偶者が世話をする」が 10.6%となっています。

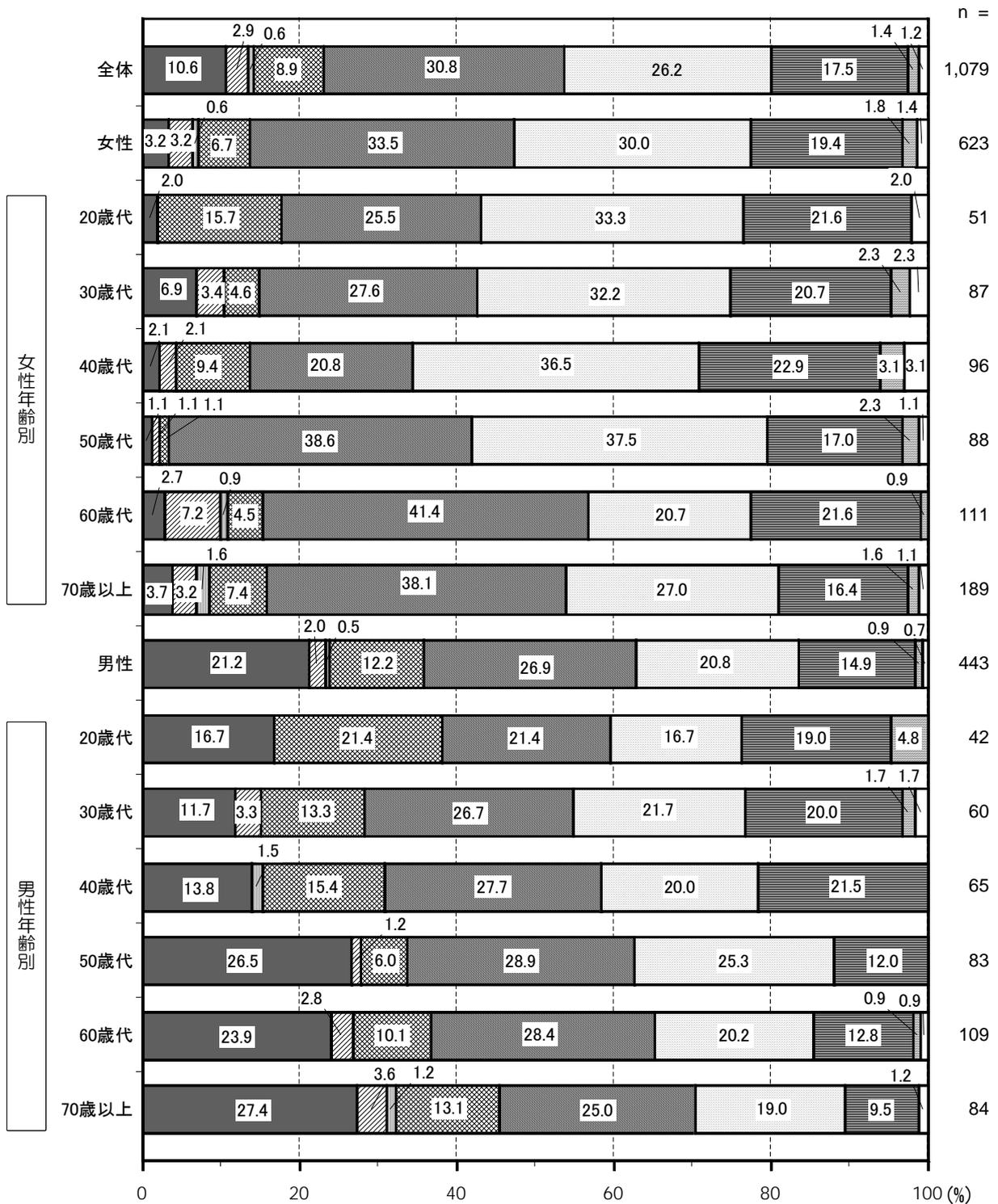
(2) 性別

- 女性では「介護保険施設を利用する」(30.0%)が男性より1割近く高く、「介護保険制度などのサービスを利用する」(33.5%)も高くなっており、女性は社会的な支援を求めていると思われます。
- 男性では「配偶者が世話をする」(21.2%)が女性の7倍近くのポイントと高く、「家族全員で世話をする」(12.2%)も高くなっています。

(3) 性別・年齢別

- 女性では20歳代で「家族全員で世話をする」が15.7%とほかの年齢層よりも高くなっています。
 - 男性では50歳代以上で「配偶者が世話をする」(23%以上)が高く、20歳代で「家族全員で世話をする」が21.4%と高くなっています。
- ▼3-3：期待度数が低いセルがあり検定不能。

図表8-4 自身の要介護時における身の回りの世話について（性別・年齢別）



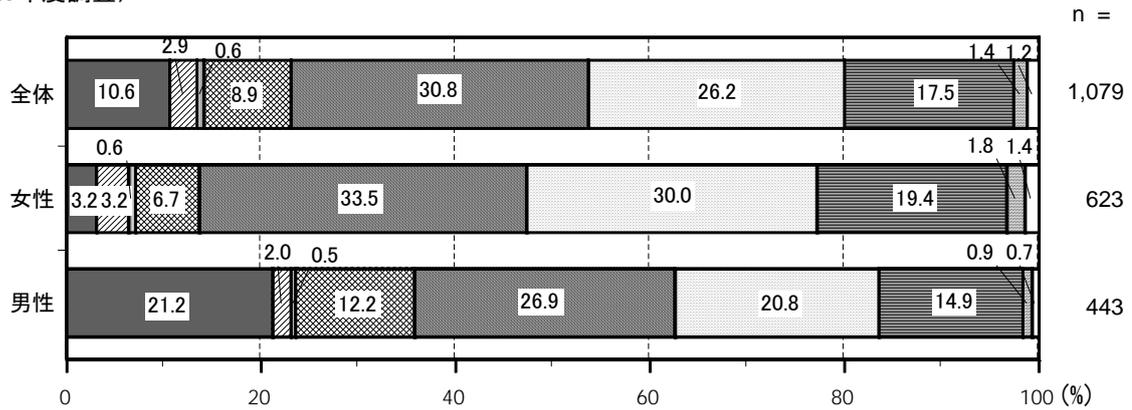
- 配偶者が世話をする
- 娘や息子の配偶者など女性の家族が世話をする
- 息子などの男性の家族が世話をする
- 家族全員で世話をする
- 介護保険制度などのサービスを利用する
- 介護保険施設(特別養護老人ホームなど)を利用する
- わからない
- その他
- 無回答

(4) 平成 20 年度調査との比較

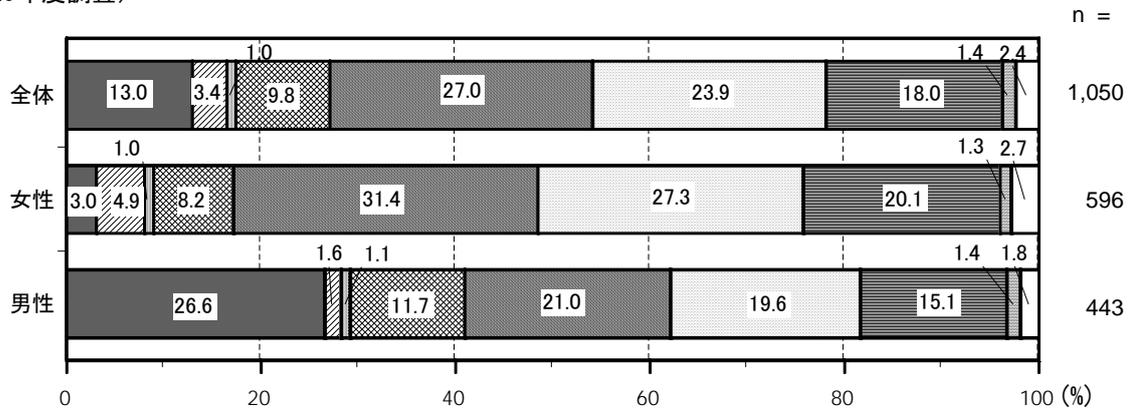
- 本調査では「介護保険制度などのサービスを利用する」(30.8%)が平成20年度に比べてやや高くなっています。(図表8-5)
- 男性では本調査では「配偶者が世話をする」(21.2%)が平成20年度調査より約5ポイント低くなり、「介護保険制度などのサービスを利用する」(26.9%)が平成20年度調査より高くなっています。

図表8-5 自身の要介護時における身の回りの世話について (平成20年度調査比較)

(平成26年度調査)



(平成20年度調査)



- 配偶者が世話をする
- ▨ 娘や息子の配偶者など女性の家族が世話をする
- ▩ 息子などの男性の家族が世話をする
- ▤ 家族全員で世話をする
- 介護保険制度などのサービスを利用する
- 介護保険施設(特別養護老人ホームなど)を利用する
- わからない
- その他
- 無回答

第9章 DV（ドメスティック・バイオレンス）について

1. 人権が侵害されるもしくは尊重されていないと感じる場合について

問 27 あなたは、人権が侵害されるもしくは尊重されていないと感じるのはどのような場合だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

（1）全体

- 「ストーカーや痴漢行為」が 53.2%と「夫婦間・恋人同士の身体的・精神的な暴力」が 52.0%で特に高くなっています。（図表 9-1）
- 次いで「職場・学校でのセクハラ」が 45.3%、「売春・買春行為」が 33.3%、「社会通念上、女性は男性の後に従うべきとされていること」が 30.2%の順となっています。
- 「特にない」は 12.0%です。

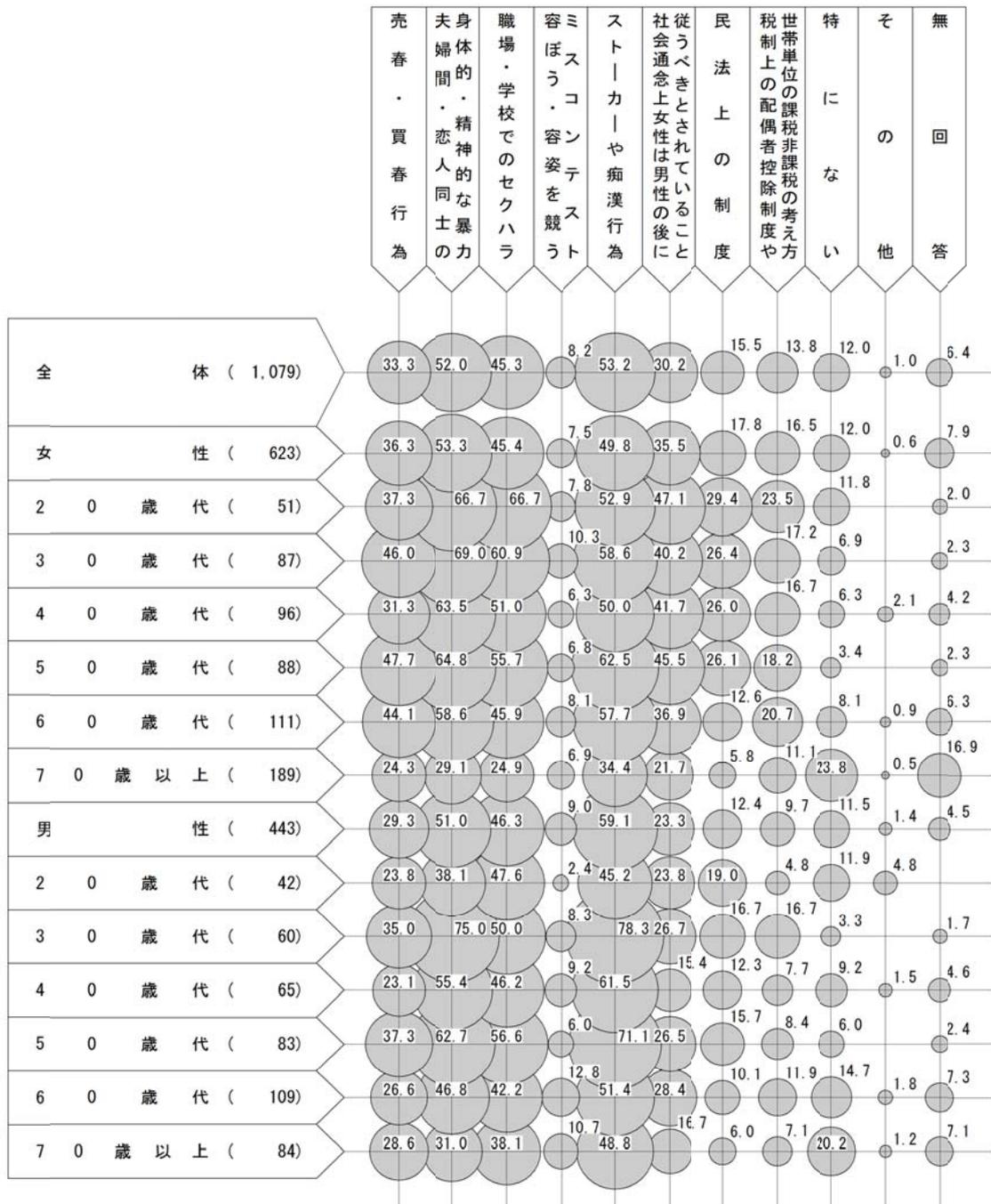
（2）性別

- 女性で回答割合が高い項目が多く、女性では「社会通念上、女性は男性の後に従うべきとされていること」が 35.5%で、男性より 12 ポイント以上高くなっています。また、女性では「売春・買春行為」（36.3%）、「民法上の制度（夫婦同姓・再婚禁止期間・子どもの認知）」（17.8%）、「税制上の配偶者控除制度や、世帯単位の課税非課税の考え方」（16.5%）が男性よりも高くなっています。
- 男性では、「ストーカーや痴漢行為」59.1%であり、女性より 1 割近く高くなっています。
- ▼2-1：有意差がある項目とない項目が半々ぐらい。

（3）性別・年齢別

- 女性の 20 歳代と 30 歳代で「職場・学校でのセクハラ」、20 歳代から 50 歳代で「夫婦間・恋人同士の身体的・精神的な暴力」が 6 割を超えて高くなっています。さらに 20 歳から 50 歳代で「社会通念上、女性は男性の後に従うべきとされていること」（4 割以上）や「民法上の制度」（25%以上）、30 歳代と 50 歳代、60 歳代で「売春・買春目的」（概ね 45%以上）が、ほかの年齢層よりも高くなっています。
- 男性では 30 歳代と 50 歳代で「夫婦間・恋人同士の身体的・精神的な暴力」（30 歳代で 75.0%）が高く、「ストーカーや痴漢行為」（7 割以上）などもほかの年齢層よりも高くなっています。
- ▽1-2：概ねの項目で有意差はあるが、一部の項目で有意差がない。

図表9-1 人権が侵害されるもしくは尊重されていないと感じる場合について（性別・年齢別）



2. DV（ドメスティック・バイオレンス）について

問 28 DV(ドメスティック・バイオレンス)について教えてください。
(あてはまるものすべてに○)

(1) 全体

- 「テレビや新聞で社会問題になっていることを知っている」が76.0%、「DVが人権侵害であることを知っている」が51.4%と高くなっています。(図表 9-2)
- 「何らかの暴力を受けたことがある」が11.5%、「身近な人から相談を受けたことがある」が8.2%となっています。

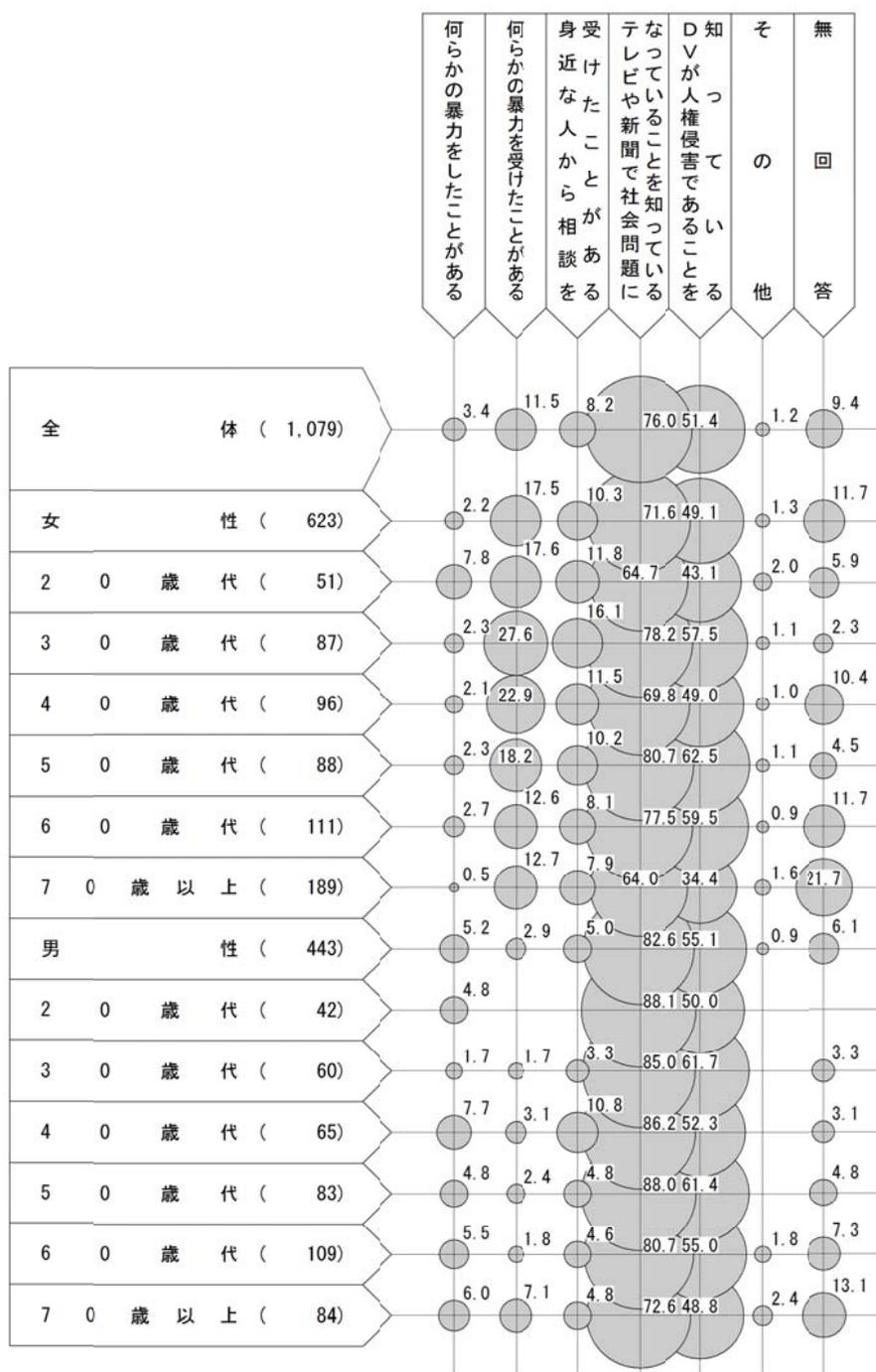
(2) 性別

- 女性では「何らかの暴力を受けたことがある」(17.5%)で、男性の約6倍のポイントと高く、「身近な人から相談を受けたことがある」(10.3%)は男性よりやや高くなっています。
 - 男性では「テレビや新聞で社会問題になっていることを知っている」(82.6%)が女性よりも11ポイント高くなっており、「DVが人権侵害であることを知っている」(55.1%)も女性よりも高くなっています。
- ▽1-2：概ねの項目で有意差はあるが、一部の項目で有意差がない。

(3) 性別・年齢別

- 女性では30歳代と40歳代で「何らかの暴力を受けたことがある」(30歳代で27.6%)が高くなっています。
 - 男性では20歳代で「テレビや新聞で社会問題になっていることを知っている」が88.1%と、特に高くなっています。
- ▽1-2：概ねの項目で有意差はあるが、一部の項目で検定不能。

図表9-2 DV(ドメスティック・バイオレンス)について (性別・年齢別)



3. 暴力を受けた際の相談について

問 29 問28で「2. 何らかの暴力を受けたことがある」と答えた方にお聞きします。
あなたはどこかに相談したり、だれかに打ち明けたりしましたか。(○は1つ)

(1) 全体

○暴力を受けたことがある 120 人の回答では、「相談しなかった」が 52.5%、「相談した」が 47.5%で、「相談しなかった」がやや多くなっています。(図表 9-3)

(2) 性別

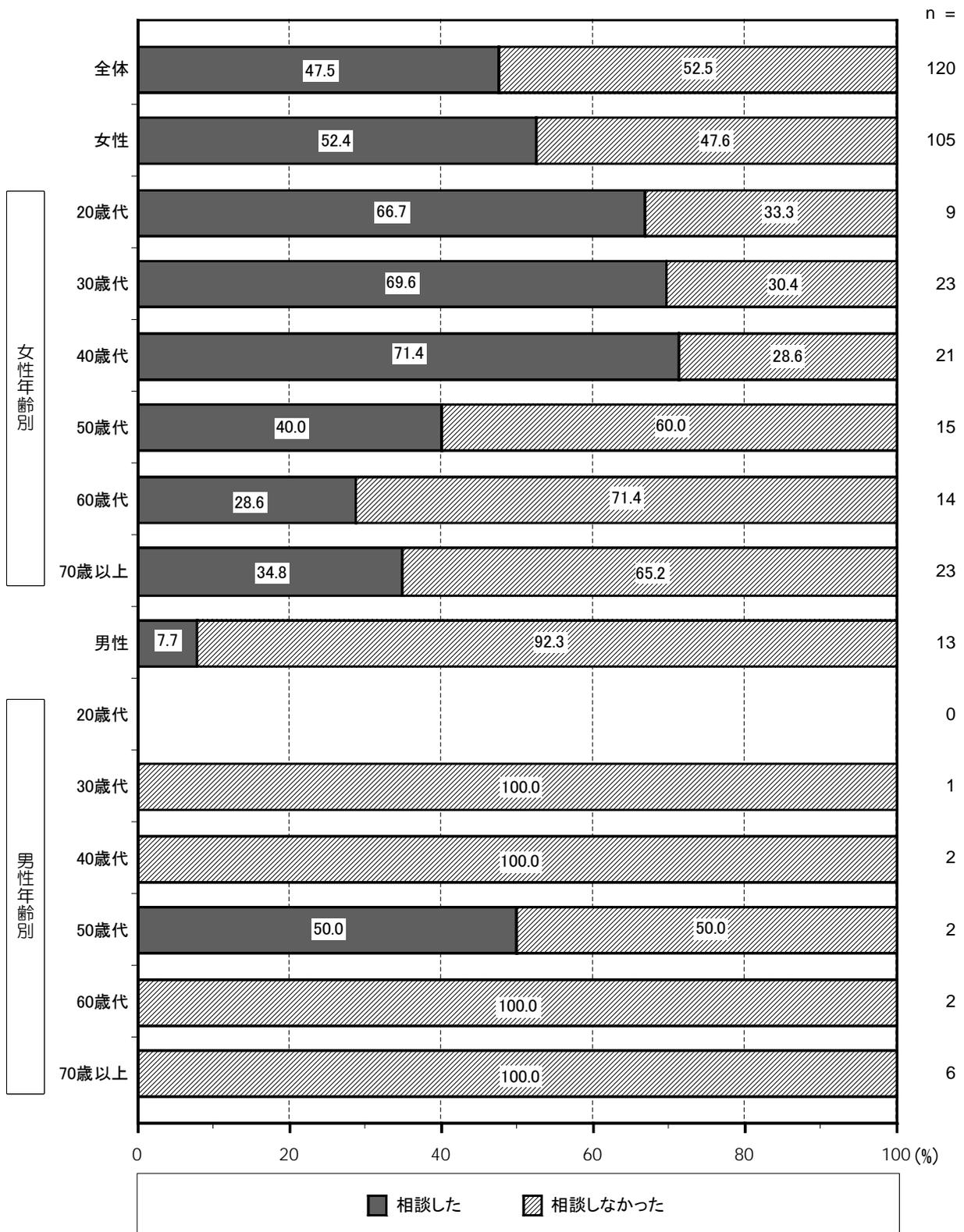
○女性では「相談した」が 52.4%で男性の 7 倍程度のポイントとなっています。

(3) 性別・年齢別

○女性では 20 歳代から 40 歳代で「相談した」が 65%を超えて、ほかの年齢層よりも高くなっています。

▼3-3：期待度数が低いセルがあり検定不能。

図表9-3 暴力を受けた際の相談について（性別・年齢別）



4. 暴力を受けた際、相談しなかった理由

問 30 問29で「2. 相談しなかった」と答えた方にお聞きします。
あなたが相談しなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○は)

(1) 全体

○相談しなかった 63 人の回答では、「相談してもむだだと思ったから」が 50.8%で最も高く、次いで「自分さえがまんすればこのままやっていけると思ったから」が 36.5%、「相談するほどのことでないと思ったから」が 30.2%、「誰に相談していいかわからなかったから」が 23.8%となっています。(図表 9-4)

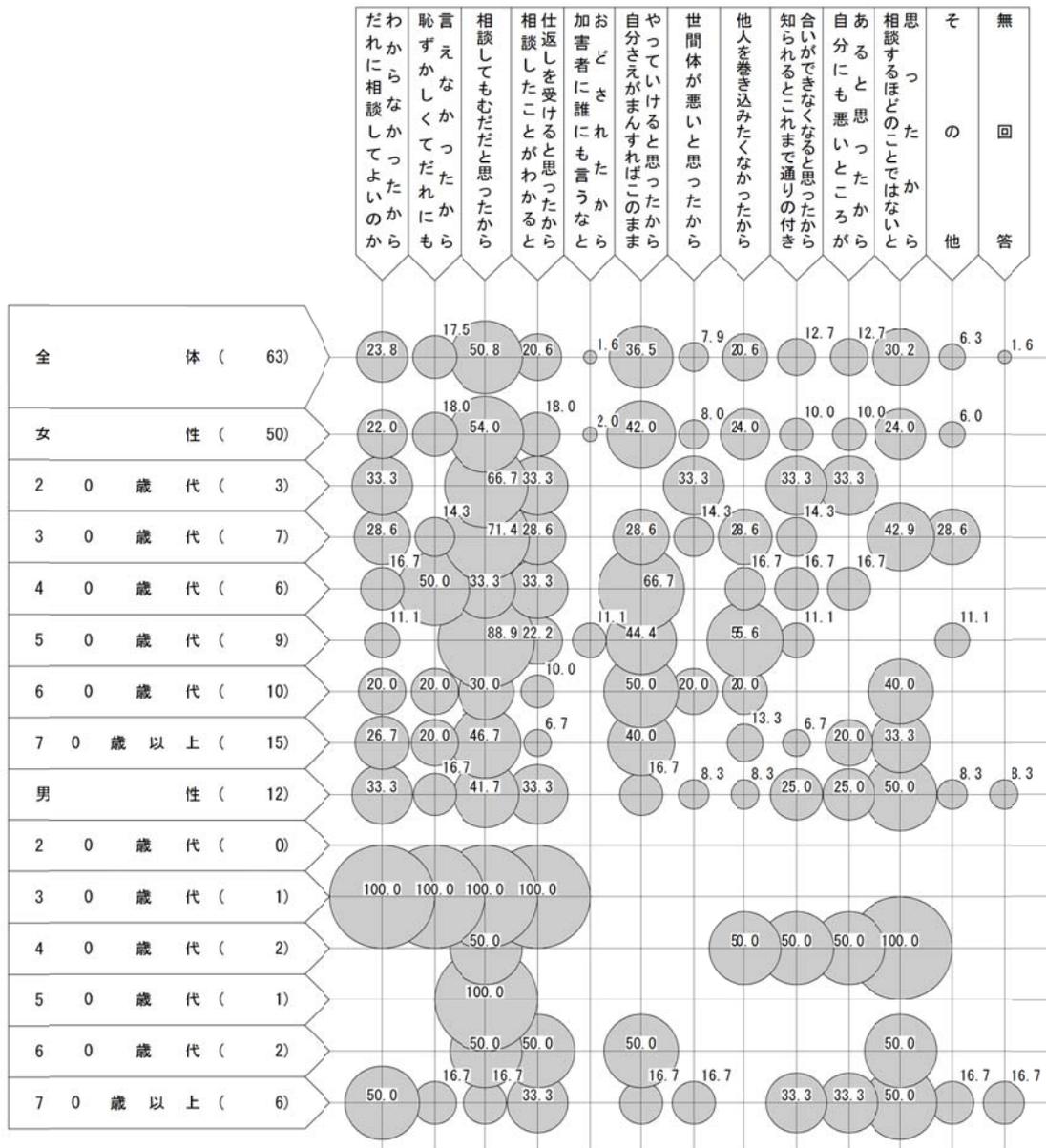
(2) 性別

○女性では「相談してもむだだと思ったから」(54.0%) や、「自分さえがまんすればこのままやっていけると思ったから」(42.0%) が、男性よりも高いとうかがえます。
▼3-3：期待度数が低いセルがあり検定不能。

(3) 性別・年齢別

○回答者数が少ないですが、女性では 20 歳代と 30 歳代、50 歳代で「相談してもむだだと思ったから」が 3分の2を超えて目立っています。
▼3-3：期待度数が低いセルがあり検定不能。

図表9-4 暴力を受けた際、相談しなかった理由（性別・年齢別）



5. 暴力の内容や頻度について

問 31 問28で「2. 何らかの暴力を受けたことがある」と答えた方にお聞きします。あなたはどのような暴力を受けましたか。またその頻度はどの程度ですか。(それぞれ1つに○)

5-1 身体に対する暴力行為

(1) 全体

○何らかの暴力を受けた124人の回答では、「何度もあった」が30.6%、「1、2度あった」が41.1%で、「無回答」が28.2%となっています。(図表9-5)

(2) 性別

○女性で「何度もあった」が33.0%で、男性よりも特に高くなっているとうかがえます。

▼3-3：期待度数が低いセルがあり検定不能。

(3) 性別・年齢別

○女性では50歳代では「何度もあった」が43.8%と最も高く、年齢層が若くなるにしたがって低くなっているとうかがえます。

▼3-3：期待度数が低いセルがあり検定不能。

5-2 精神的な脅迫やおどし

(1) 全体

○「何度もあった」が48.4%、「1、2度あった」が25.0%で、「無回答」が26.6%となっています。(図表9-6)

(2) 性別

○女性では「何度もあった」が49.5%で、男性よりも11ポイント高くなっているとうかがえます。

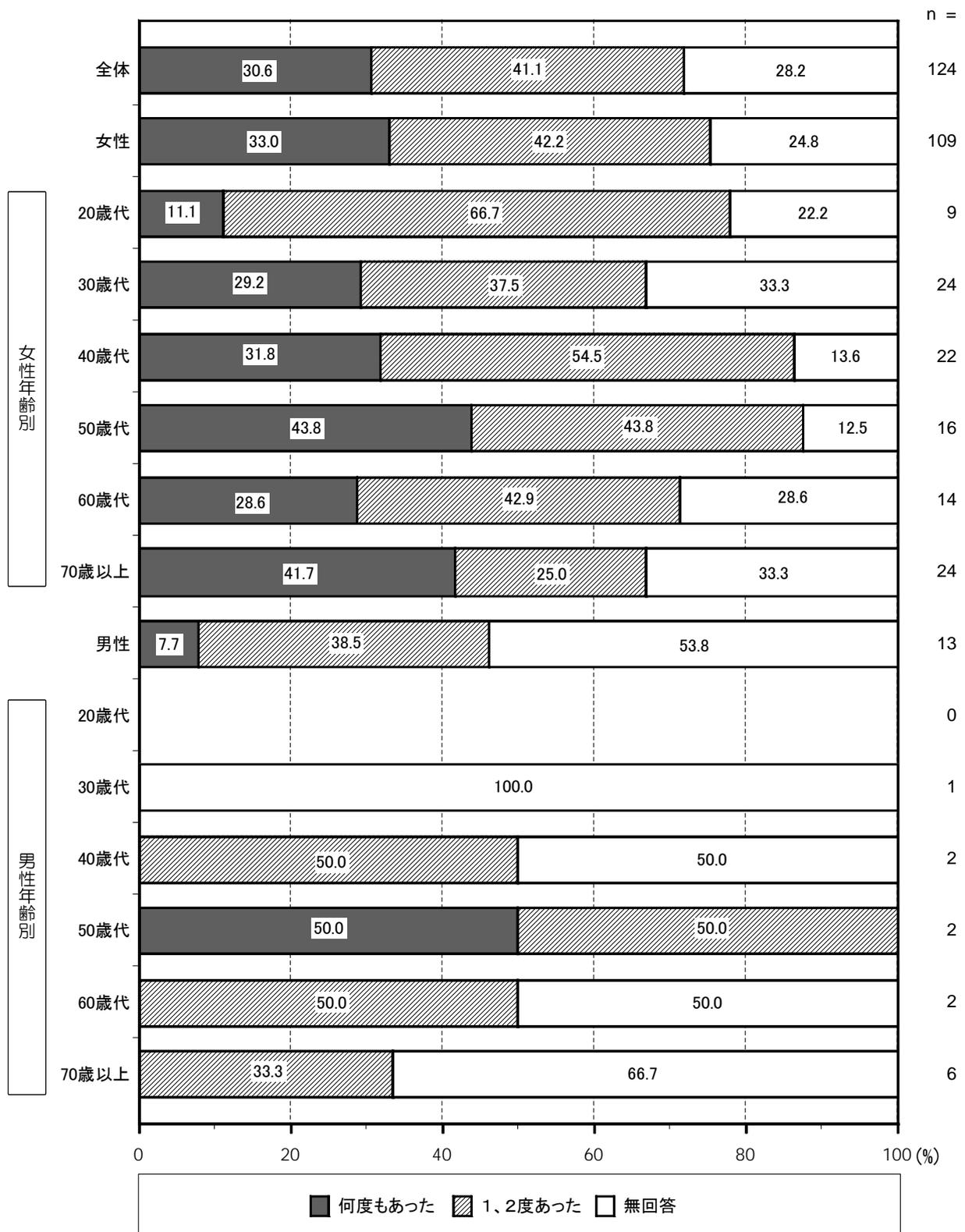
▼3-3：期待度数が低いセルがあり検定不能。

(3) 性別・年齢別

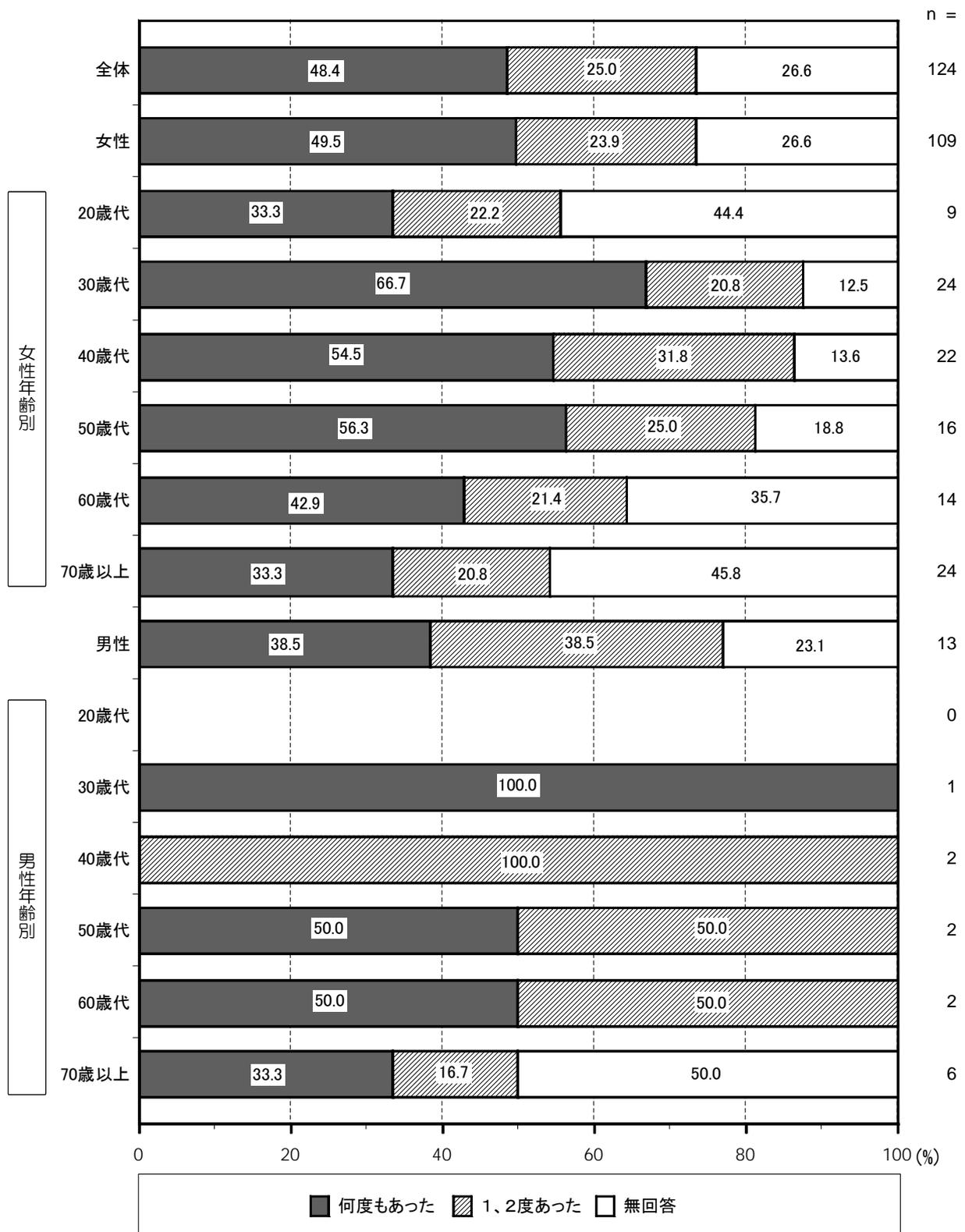
○女性では30歳代で「何度もあった」が66.7%と最も高くなっているとうかがえます。

▼3-3：期待度数が低いセルがあり検定不能。

図表9-5 暴力の内容や頻度について—身体に対する暴力行為（性別・年齢別）



図表9-6 暴力の内容や頻度について—精神的な脅迫やおどし（性別・年齢別）



5-3 性的行為の強要

(1) 全体

○「何度もあった」が13.7%、「1、2度あった」が18.5%で、「無回答」が67.7%となっています。(図表9-7)

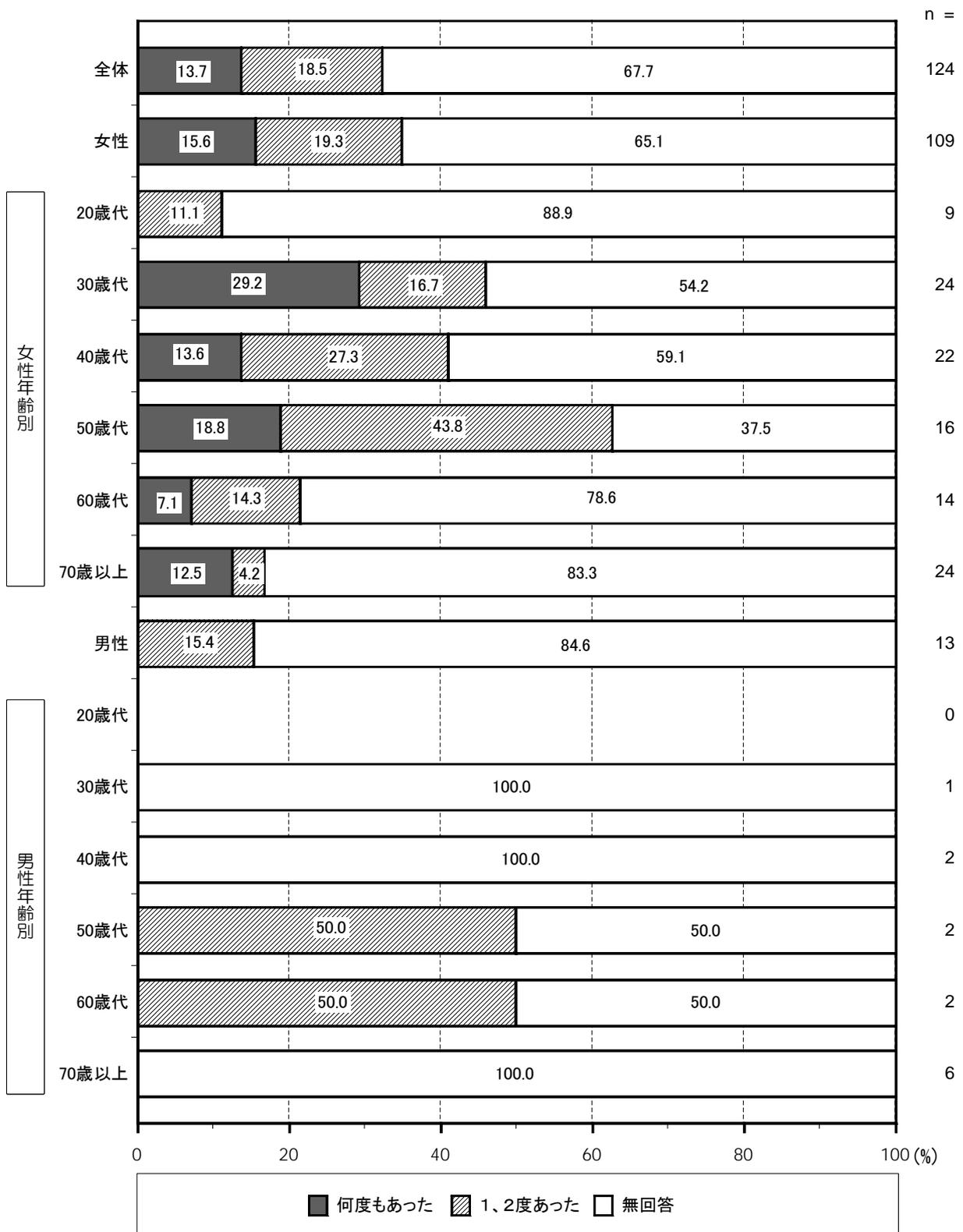
(2) 性別

○女性のみで「何度もあった」が15.6%、「1、2度あった」が19.3%見られます。
▼3-3：期待度数が低いセルがあり検定不能。

(3) 性別・年齢別

○女性では30歳代で「何度もあった」は29.2%と高くなっていることがうかがえます。
▼3-3：期待度数が低いセルがあり検定不能。

図表9-7 暴力の内容や頻度について—性的行為の強要（性別・年齢別）



6. DV被害者に対する援助体制の必要性について

問 32 あなたは、DV被害を受けた人に対する公的な相談や援助体制が必要だと思いますか。(○は1つ)

(1) 全体

○「必要である」が81.0%と圧倒的に多く、「特に必要ない」が1.2%、「わからない」が11.6%となっています。(図表 9-8)

(2) 性別

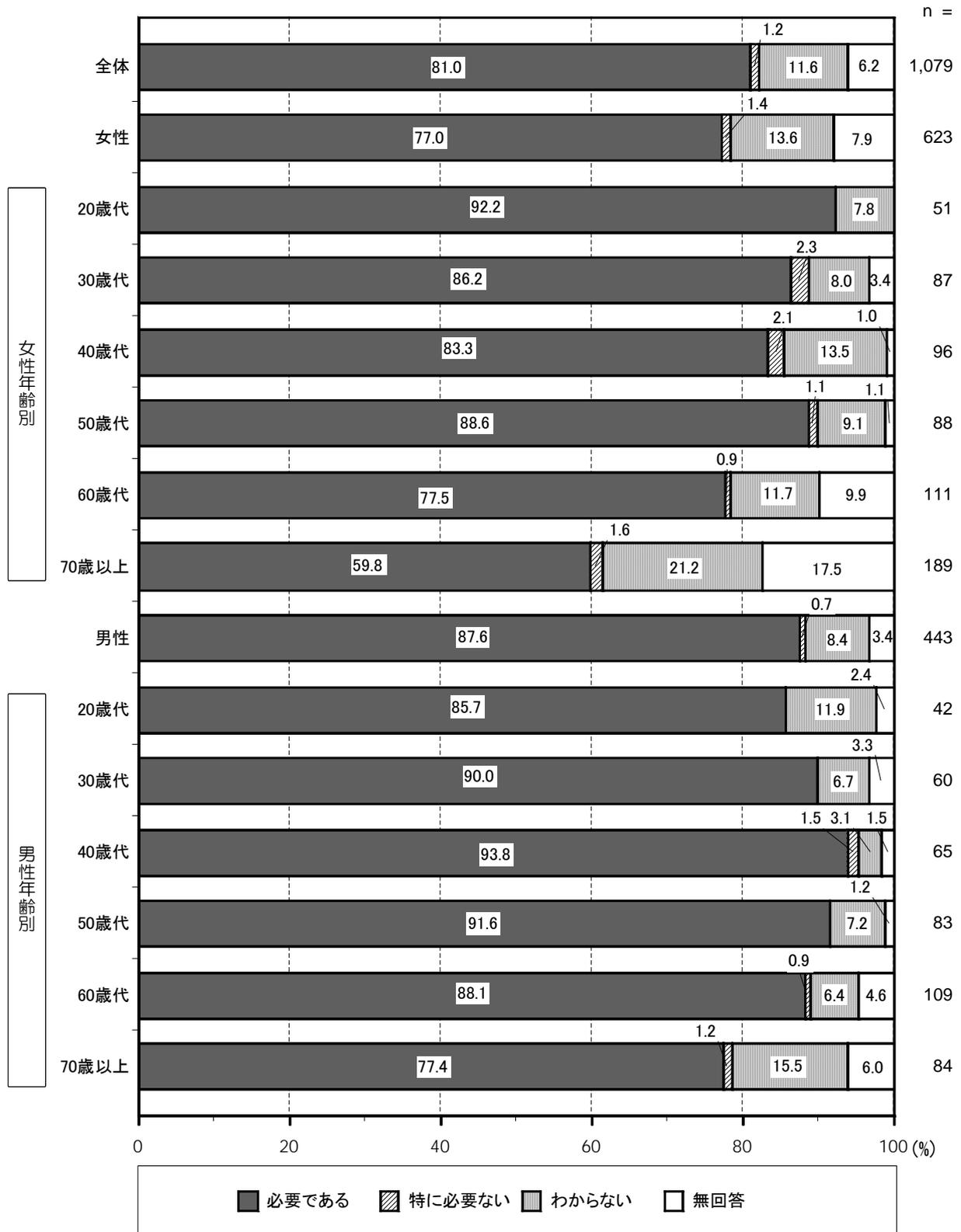
○男性で「必要である」が87.6%であり、女性より10ポイント以上高くなっています。

(3) 性別・年齢別

○女性では20歳代「必要である」が92.2%、男性では40歳代で93.8%と特に高くなっています。

▼3-3：期待度数が低いセルがあり検定不能。

図表9-8 DV被害者に対する援助体制の必要性について（性別・年齢別）



7. 具体的な支援内容について

問 33 問32で「1. 必要である」と答えた方にお聞きします。
あなたは、どのような相談や支援が必要だと思いますか。(〇は2つまで)

(1) 全体

- 「被害から逃れるための緊急一時保護施設（シェルター）などの設置」が 36.6%で最も高く、次いで「被害から逃れた方が自立して生活できるような、経済的支援、就業支援等」が 34.9%、「家庭の中のことでも気兼ねなくうちあけて相談できる窓口」が 31.5%、「被害者・加害者の相談にいつでも電話で対応できる相談窓口」が 24.5%と回答が集まっています。(図表 9-9)

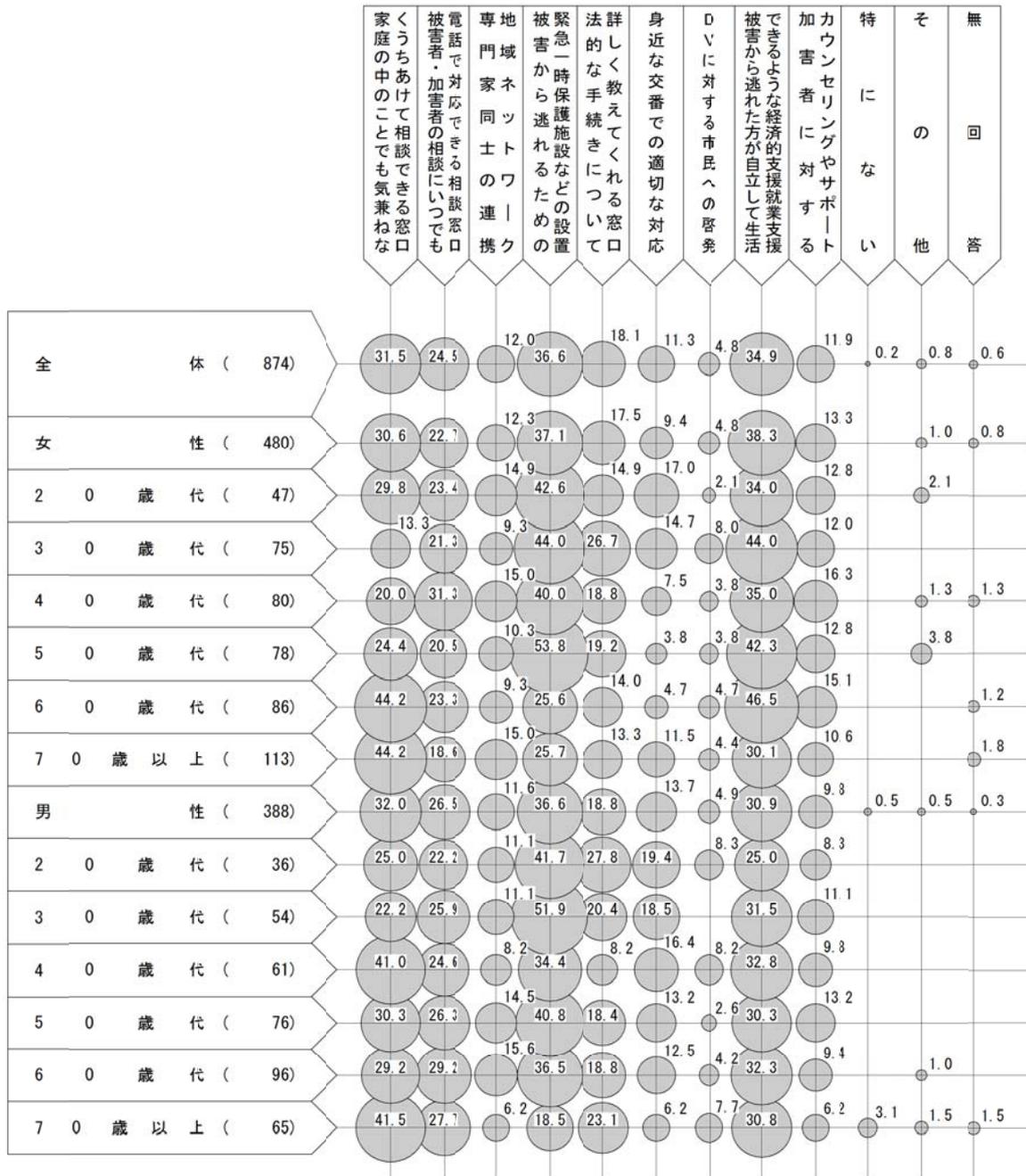
(2) 性別

- 女性で「被害から逃れた方が自立して生活できるような、経済的支援、就業支援等」が 38.3%であるのに対して男性よりも7ポイント以上高くなっています。
▼3-1：概ねの項目で有意差はなく、一部の項目で有意差がある。

(3) 性別・年齢別

- 女性では20歳代から50歳代で「被害から逃れるための緊急一時保護施設（シェルター）などの設置」が高く、特に50歳代では53.8%となっています。また、30歳代で「被害から逃れた方が自立して生活できるような、経済的支援、就業支援等」(44.0%)、60歳代以上で「家庭の中のことでも気兼ねなくうちあけて相談できる窓口」(44.2%)などもほかの年齢層よりも高くなっています。
- 男性では30歳代で「被害から逃れるための緊急一時保護施設（シェルター）などの設置」(51.9%)、40歳代と70歳以上で「家庭の中のことでも気兼ねなくうちあけて相談できる窓口」(4割強)などがほかの年齢層よりも高くなっています。
▼2-2：有意差あり、有意差なし、検定不能の項目が混在。

図表9-9 具体的な支援内容について（性別・年齢別）



8. 「デートDV」の認知

問 34 あなたは、「交際相手からの暴力」(いわゆる「デートDV」)について、知っていますか。(○は1つ)

(1) 全体

- 「言葉も、その内容も知っている」が29.4%、「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」が24.9%、「言葉があることを知らなかった」が37.3%と回答が分かれています(図表9-10)

(2) 性別

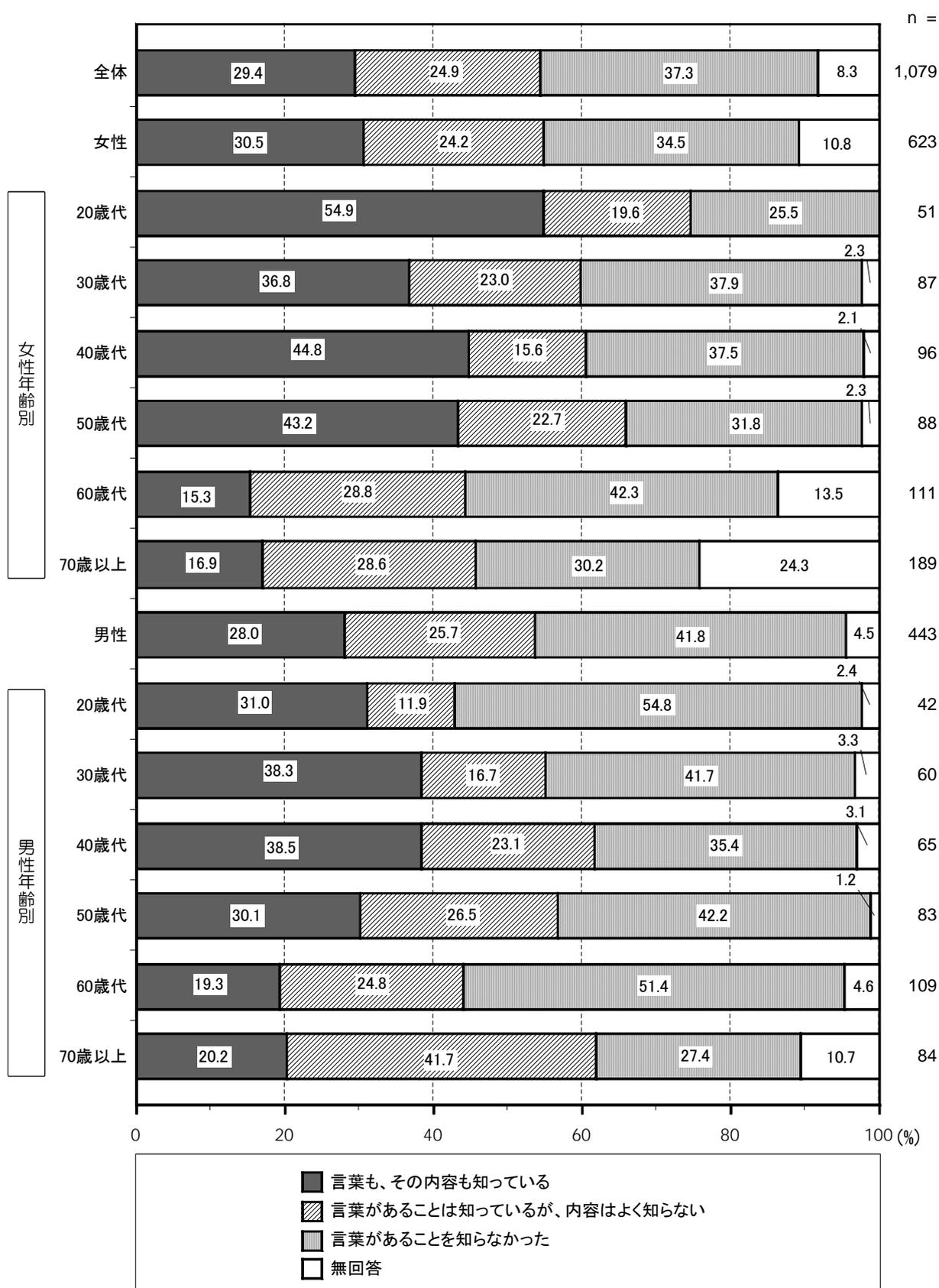
- 男性で「言葉があることを知らなかった」が41.8%であり、女性よりも7ポイント以上高くなっています。

▼3-2：有意差はない。

(3) 性別・年齢別

- 女性では20歳代から50歳代で「言葉も、その内容も知っている」の割合が高く、特に20歳代では54.9%と高くなっています。
- 男性では30歳代と40歳代で「言葉も、その内容も知っている」(約38%)がほかの年齢層よりも高く、20歳代と60歳代では「言葉があることを知らなかった」が5割を超えて高くなっています。

図表9-10 「デートDV」の認知（性別・年齢別）



第10章 男女共同参画社会の実現に向けて

1. 今後、男女が家事、子育て、介護等に積極参加するための必要事項

問 35 今後、男女がともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

(1) 全体

- 「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が45.8%で最も高く、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりをあらためる」が42.9%となっています。(図表 10-1)
- 次いで、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること」が36.9%、「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が36.6%、「仕事中心という社会全体のしくみをあらためる」が34.8%、「誰もが男女共同参画について関心をもつ」が31.9%、「子どもが将来家事などを男女で分担するような子育てや教育をする」が30.5%となっています。

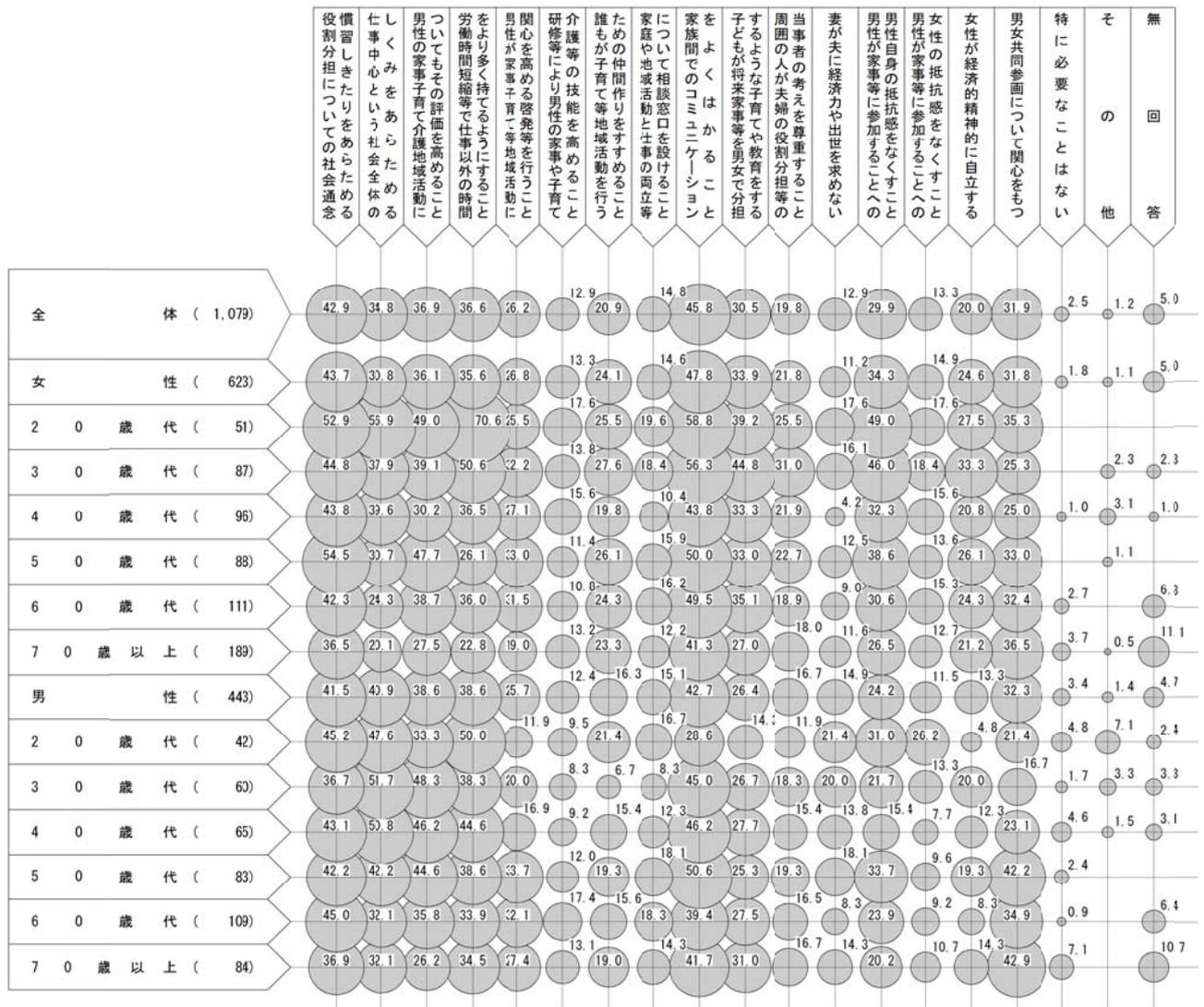
(2) 性別

- 女性では「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(34.3%)と「女性が経済的精神的に自立する」(24.6%)が、男性よりも10ポイント以上高くなっています。また、「誰もが子育てや介護、地域活動を行うための仲間(ネットワーク)作りをすすめること」(24.1%)も、男性より高くなっています。
 - 男性では「仕事中心という社会全体のしくみをあらためる」は40.9%で、女性よりも約10ポイント高くなっています。
- ▼2-1：有意差がある項目とない項目が半々ぐらい。(有意差がない項目が多い)

(3) 性別・年齢別

- 女性の20歳代では「仕事中心という社会全体のしくみをあらためる」(56.9%)、20歳代と30歳代では「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」(55%以上)と「子どもが将来家事などを男女で分担するような子育てや教育をする」(30歳代で44.8%)、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(45%以上)が、ほかの年齢層よりも高くなっています。
 - 男性では、20歳代で「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」(50.0%)、30歳代と40歳代で「仕事中心という社会全体のしくみをあらためる」(5割以上)、50歳代で「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」(50.6%)などが、ほかの年齢層よりも高くなっています。
- ▼2-2：有意差あり、有意差なし、検定不能の項目が混在。

図表 10-1 今後、男女が家事、子育て、介護等に積極参加するための必要事項
(性別・年齢別)



2. 男女平等社会実現のための岡崎市への期待事項

問 36 あなたは、男女平等社会の実現を図るため、今後の岡崎市に期待することは何ですか。(〇は3つまで)

(1) 全体

- 「高齢者や病人の在宅介護サービスや施設または、福祉施策の充実」が 43.0%で最も高く、次いで「育児・保育施設や支援事業の充実」が 40.2%となっています。(図表 10-2)
- 「平等意識を育てる学校教育の充実」が 25.7%、「女性の就労機会や労働条件の男女格差を是正するための働きかけ」が 25.0%、「ひとり親家庭などへの援助や福祉対策」が 21.9%となっています。

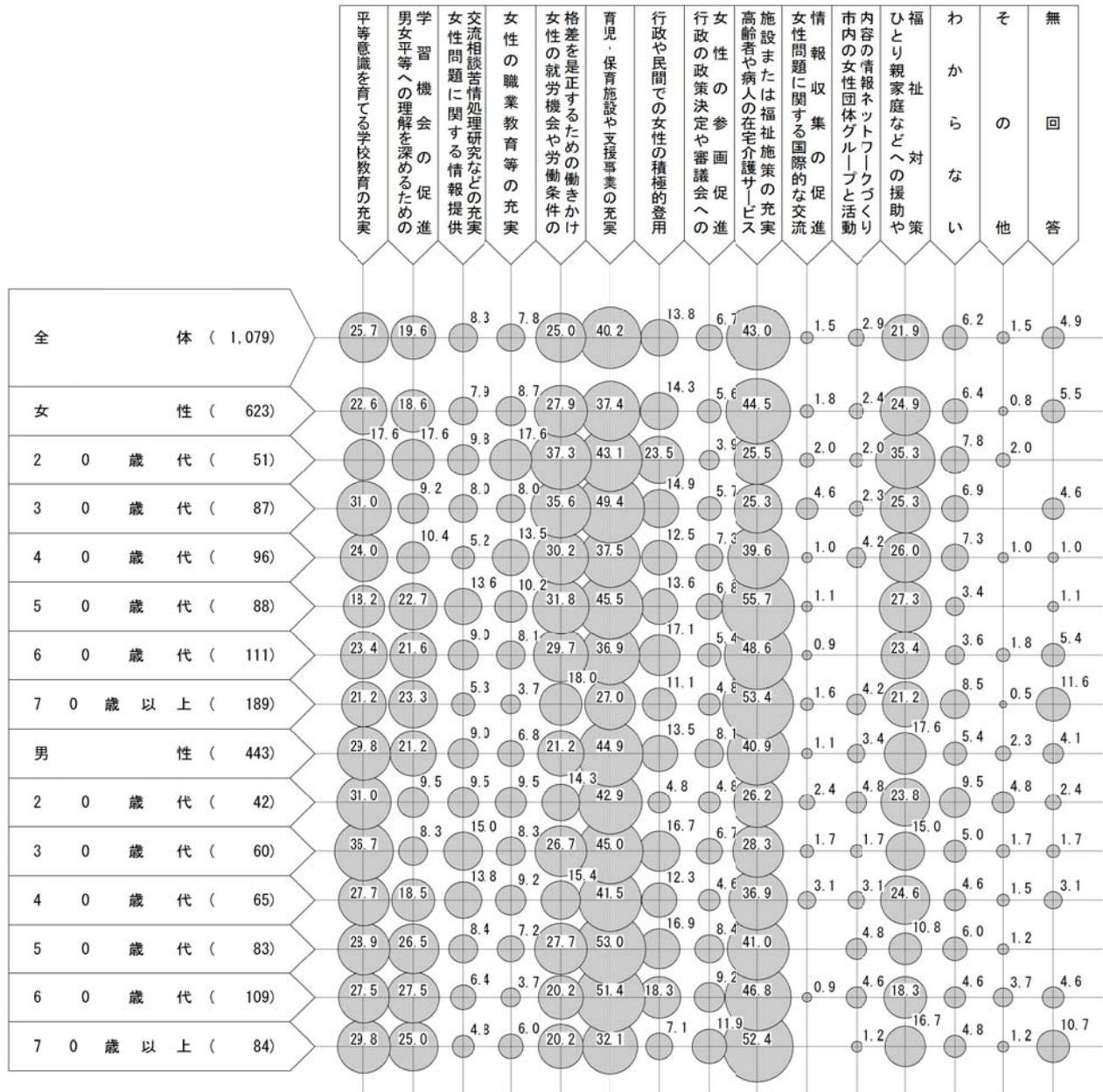
(2) 性別

- 女性は「ひとり親家庭などへの援助や福祉対策」(24.9%)が男性よりも7ポイント以上高くなっており、「女性の就労機会や労働条件の男女格差を是正するための働きかけ」(27.9%)と「高齢者や病人の在宅介護サービスや施設または、福祉施策の充実」(44.5%)なども男性よりも高くなっています。
- 男性では「平等意識を育てる学校教育の充実」(29.8%)と「育児・保育施設や支援事業の充実」(44.9%)で、それぞれ女性より7ポイント以上高くなっています。
- ▼2-1：有意差がある項目とない項目が半々ぐらい。(有意差がない項目が多い)

(3) 性別・年齢別

- 女性の20歳代で「ひとり親家庭などへの援助や福祉対策」(35.3%)、20歳代と30歳代で「女性の就労機会や労働条件の男女格差を是正するための働きかけ」(35%以上)、20歳代と30歳代、50歳代では「育児・保育施設や支援事業の充実」(30歳代では49.4%)、50歳代で「高齢者や病人の在宅介護サービスや施設または、福祉施策の充実」(55.7%)が、ほかの年齢層よりも高くなっています。
- 男性の50歳代と60歳代では「育児・保育施設や支援事業の充実」(5割以上)などがほかの年齢層よりも高くなっています。また、男性で年齢層が上がるにしたがって「高齢者や病人の在宅介護サービスや施設または、福祉施策の充実」が高くなっており、70歳以上では52.4%となっています。
- ▼2-2：有意差あり、有意差なし、検定不能の項目が混在。

図表 10-2 男女平等社会実現のための岡崎市への期待事項（性別・年齢別）



第 11 章 自由筆記意見とそのまとめ

- 自由筆記意見については、172 人から、204 件の回答を得ました。
- また、意見の分類については、前回調査の分類を踏まえるとともに、計画項目として掲げられている項目にかかわる意見については再分類して示しています。

大分類		件 数
1	男女共同参画社会に関する考え方について	42
2	職場について	24
3	ワーク・ライフ・バランスについて	2
4	DV、セクハラについて	4
5	男女共同参画の推進について	16
6	意識改革や意識啓発について	24
7	教育について	15
8	地域社会について	6
9	子育てについて	23
10	介護について	2
11	高齢者、障がい者、ひとり親家庭の人について	5
12	心身の健康づくり・維持について	3
13	その他	38
小分類 (サブカテゴリー)		件 数 (各大分類に含まれているものの合計)
ア	施設の充実	6
イ	社会福祉サービス・補助金（給付金、助成金）等の支援	12
ウ	人事面について	7
エ	女性の社会進出	9
オ	地域福祉	7
カ	労働問題	8
キ	アンケートについて	21
ク	行政による情報発信	11

【1. 男女共同参画社会に関する考え方について】

サブカテゴリー	意見	性別・年齢
施設の充実	戦前の男社会を子供心に見て来たものには、現在がうらやましいですが、まだ男社会ではないと思う。女性にもっと頑張ってもらいたいです。 また、いろいろな施設、保育、介護、他充実してもらいたいです。	女性・70歳以上
女性の社会進出	女性がもっと社会に出て活躍できる環境を作る事が大切だと思います。そのために子育てをもっと支援すべきだと思います。	男性・50歳代
女性の社会進出	男性が女性のやっていたこと、女性が男性のしていることを互いに取り組んでいくようにしなければ目に見えた男女共同参画にはなっていないと思います。 市長公選を男女交互制にしてみたり、ブルーカラー層の人も積極的に参画していくようなトップダウン式の話の持っていく方も必要と考えます。	男性・40歳代
アンケートについて	男女共同参画はジェンダーフリーの強制だと思っています。 税金でこのようなアンケートをしたり、市役所にまで「男女共同参画班」なるものまでつくっている。 このアンケートの中にも多々不愉快な質問や回答を誘導するような恣意的なものがあった。	女性・30歳代
アンケートについて	このアンケート自体、男女を差別していると思う。	女性・30歳代
アンケートについて	真の意味での男女平等とは何かの概念がしっかり把握されたり理解されたりしていないようにも思います。理想の実現は遠くても歩みつつけることが必要だとこのアンケートに答えながらつくづく思いました。	女性・70歳以上
	女性が外に出て働くことに反対ではないが、「男女平等」をことさら強調するのはよくないと思う。 女性が仕事をもっとその負担は大である。 あえて、男女平等共同参画を前面に出し、キャンペーンする必要性がわからない。	女性・60歳代
	むずかしい問題でした	男性・60歳代
	男性と女性に備わる身体的能力や役割がある以上、完全な平等は難しい。相互が互いの立場を理解し尊重する環境や、自分の生き方を偏見や習慣にとらわれないで選択できる場づくりが重要と思う。	男性・50歳代
	社会の慣習やしきたり等を強制的に改める必要性は感じない。各人が意識の部分で男女平等社会を目指すことは必要だと思うが、それにより無理に社会の枠組みを変える必要性はないと思う。	男性・30歳代
	男女共同参画社会づくりは手段であり、目的ではないと考えています。目的は子供の出生率を高めて、高齢化を支える社会をつくり上げること。	男性・50歳代
	女性の結婚後の生活設計は家庭に入ると言う考えで「物事はこうである」と言う考えではなく夫婦で話し合いをすればよいと思います。	男性・70歳以上
	男女の平等は全ての区別を無くして同じにするのではなく、男女それぞれの違いや個人個人の長所、短所を認めた上で適性を判断する事が大切だと思います。	男性・40歳代
	男性には男性の役割、女性には女性の役割がそれぞれあると思いますが、それを、それぞれ理解した上で、男女平等の気持ちを持てる社会になるといいなと思います。	女性・20歳代
	何事も、女性・女性・女性と言う様に、結局は、優遇されている身だと思う。	男性・40歳代
	日本は、偏見の国。昔の法律が現在もあり続けたりするのは、おかしい。時代と共にその時代に合った内容に変えていくべきだと思う。まずは、古い法律を全て変えて下さい。	男性・20歳代

	不当な男女差別は改善していく必要があるが、男女の間には体力面、能力面で差や違いがあるのは当たり前だと思う。 それらを考慮した上で、男女が協力していくべきだと思う。	女性・20歳代
	すべて男女平等にすれば、幸せになるとは思いません。平等にすべきことと、そうでないことを、きちんと分けた上で、社会づくりをしていきたい。	男性・20歳代
	現代は男女と言う分け方ではないように思います。	男性・40歳代
	年代によって考え方はいろいろだと思う。 戦争中は男尊女卑でそれがあたり前だった。 男も女も上手に生きて下さい。	女性・70歳以上
	男女平等、確かにそうでしょう。しかし、現在のところ待遇など全てが平等であるべきだと云う事が正しいのでしょうか。 平等よりも、男女公平となるべきだと思います。	男性・60歳代
	私の年代(70代)では、男女平等とは、なかなか思う事が出来なく家事は無論、女の仕事だと思って居ます。	女性・70歳以上
	男、女社会ではなく個性が活かせる社会であってほしい	男性・50歳代
	このアンケートを制作された者が、現在日本において男女平等では無いと思っているのか聞きたい。	男性・40歳代
	待遇が平等になるのはうれしいが、やっぱり女性は子どもを産んで育てないといけないから、全く男性と同様な扱いは無理だと思う。	女性・20歳代
	ただ、男性の負担を増やしましょう、企業や財政の負担を増やしましょうといった結論を出してはほしくない。	男性・40歳代
	『男尊女卑』という考え方から『女尊男卑』という考え方に転換しよう」と言っているように聞こえる。 女性が働くか働かないかの話は、家庭で話し合っ決めていくことではないでしょうか。	男性・30歳代
	男女の分担の問題もどうでなければいけないと云うものでもない。	男性・60歳代
	古い習慣にも良い所はたくさんあります。それを残しつつ新しい事にも目をむける事が大切だと思います。	女性・50歳代
	仕事は分業化が進んでいるのに、家庭は全てできる人を望む、男に家事ができるはずがない。できるように教育するには、誰がするのか。	女性・40歳代
	男性も女性もお互い人格が自立していて話し合い・協力しあえば良い家庭が築けると思う。	女性・70歳以上
	男の役割、女の役割、性が異なる以上完全には平等にならない。男に足りないのは思いやり、女に足りないのはガマン。	男性・40歳代
	男女の役割分担は様々なところであると思いますが、その役割を全てできる能力をお互いに高め合うことができるといいと思います。	女性・50歳代
	世の中男性優位であることは間違いありません。 お互いの言い分を認め合うことは簡単ではないことだと思いますが、十分議論しあって行かないことには何も進んでいかないでしょう。	女性・70歳以上
	女性ばかり考えられている気がする。父子家庭は女性よりも今の世の中では生活がむずかしいと思う。	男性・30歳代
	私の幼少の頃は男尊女卑の傾向を強く感じたことがありましたが、現在ではその傾向は全く感じられず良い社会になったと思っています。	男性・70歳以上
	いくら、どんな場所を作っても本人の心のあり方なので、ちゃんとやる人はやるし、やらない人はやらない。	女性・40歳代
	男女共同参画社会づくりという言葉が好きではありません。 日本は差別社会であると感じています。男女差別はそれのみで考えるのではなく社会全体の差別の中のひとつと考えるべきだと思います。 市からも国に要望を出して行ってほしいと思います。	男性・60歳代
	男性と女性は、もともと生物学的に異なる生物として、とらえるべきだと思う。男性の得意分野、女性の得意分野を生かしてお互い納得し合えばよいと思う。	男性・30歳代

	「男女共同参画社会づくり」という言葉は漠然としていて、広がりすぎている。 年代によって答えもずい分変わる気がします。年代を分けて聞いてもいいかと思いました。	女性・60歳代
	男女共同参画社会という考え方は賛成ですが、男女間の生物学的な差も考えるべきだと思っています。	女性・20歳代
	男性・女性ともそれぞれ固有の身体および精神（心）の特徴を持っている。このことを無視するような画一的な考え方による社会づくりはやめてもらいたい。	男性・60歳代

【2. 職場について】

サブカテゴリー	意見	性別・年齢
社会福祉サービス・補助金（給付金、助成金）等の支援	生涯通して、なんらかの仕事を持っていたいとも思っています。行政からなにかできることがあれば、ぜひ実現させてほしいです。	女性・20歳代
人事面について	男であれ女であれ能力の差はありません。 男女共同参画社会づくりといえども、まずは何をさしおいても、市政に従事、会社へ従事する者は、やる気のある者を優先し採用する。 まずは市政から率先すべき。	男性・50歳代
人事面について	今は、女性登用率を上げるようにと政府からの方針があり、社会ではそれを念頭に人事を行うことが多くなってきている。しかし、女性の能力開発を若い時期から男性と同等に行わなければ、この政策は、本当の意味で実現しない。	女性・60歳代
人事面について	岡崎市職員は他の職員よりレベル等が下位の様に思える。職員採用は高卒ではだめ、大卒等を採用すべきだ。	男性・70歳以上
人事面について	色んな制度があっても結局は、正社員の人しか適用・優遇されない。	女性・20歳代
人事面について	市の職員や議員の定数の半分を女性にする等、思い切った方策を実施して行く事が民間企業等への刺激になると思う。	男性・50歳代
人事面について	共同参画の元、能力に見合わないポストへの起用等に熟慮して頂きたい。	男性・30歳代
女性の社会進出	女性の社会進出について言えば、行政・公務員の組織ですでに進んでいる。 高学歴の女性が、子どもを出産しても仕事を継続できる社会や経済力がない男性であっても、夫婦共働きで子どもの育児をやっている社会の実現を希望する。	男性・50歳代
女性の社会進出	女性の正規職員化を平等に進めることで、生活が安定し、結婚や子どもの出生率の増加が望める。労働人口の減少や少子化の一助になる政策を進めて欲しい。	男性・50歳代
女性の社会進出	女性の社会進出が進み、給料がアップする事で男性、女性ともに同じ人間として社会の中で協力し同じ立場で生きていける事が必要と思う。	女性・20歳代
労働問題	各会社内に保育施設を作る事（0～3才）、賃金の差をなくす事。	男性・70歳以上
労働問題	会社で、子どもを出産の際、残って欲しい人は残ってもらい、辞めてほしいと思っている人には退職してもらった。人間なので『情』もあると思う。	女性・50歳代
労働問題	労働者の権利である有給休暇制度を実際には使いにくい。 大企業だけでなく、すべての企業で平等に有給休暇や休日の運用を正しくすれば現在の法律でも対応可能だと思う。	男性・40歳代

労働問題	男性が育児休暇を取るのは理想だが、家庭状況等を考えると企業に制度があってもまず利用されることはないと思う。行政がもっと男性の育児参加ができるように大企業中心に支援を行ってほしい。	男性・20歳代
労働問題	男女共同の作業内容であるのかかわらず、男女の賃金の差が多すぎる。一度、関係者の方に確認して欲しい。	女性・40歳代
労働問題	育児休業等の制度があっても、仕事が忙しく取れない。もっと利用しやすい環境をつくらないと女性の就職は大変です。	女性・60歳代
労働問題	公務員については”法”である以上、男女平等化は進んでいると思うが、民間企業（中小企業）への浸透はまだである。経営陣が高齢であれば、その時代の考えが会社の法律となっている。	女性・40歳代
	男性の責任、女性の責任、それぞれありますが、まだまだお互いの隠された、抑えられた能力を發揮できるはずだと思います。 ヨーロッパでは家事も育児も半々です。古風な考え方を少しでもなくすように講習会とかするべきだと思います。	女性・40歳代
	男女平等の先進国であるアメリカでさえ、働く女性にとって「ガラスの天井」があると聞いています。日本も平等を唱えながら、やはり現実はまだまだ男子優先の社会だといわざるを得ません。	女性・70歳以上
	会社においても、女性が出世できないと言うが、男性が、一般事務などを希望しても、逆に就けない。その事も問題だと思う。	男性・40歳代
	企業での制度が整わなければ実現されないと思う。	女性・20歳代
	「平等」の解釈をどうとらえるかで意見が違ってきますが、そもそも男と女では体力など差があり、男性と同等の仕事は女性にはできないと思います。このアンケート「平等」とは、何の量を平等と言っているのでしょうか。公務員の方が考えている平等と、民間で利益を上げるために努力している方の考えている平等とは、大きな差があると考えます。	男性・40歳代
	やはり子育ては女性が中心でやり、夫は妻からの要求があった場合は積極的に協力すべきだと思う。女性が子育てをしたあとは、社会で働くことが出来るような職場をつくるのが女性のためにはぜひ必要と思う。	男性・70歳以上
	企業においても、男性と同じ仕事をしていても、女性だからという事だけで、賃金も安く、男女の格差を感じています。行政と企業と地域が、連携を取って進めていくことが大切だと思います。	女性・50歳代

【3. ワーク・ライフ・バランスについて】

サブカテゴリー	意見	性別・年齢
	家庭生活をするに当たり、親、子ども全てコミュニケーションをとり、旅行を楽しむなど。	女性・70歳以上
	男女共同参画の重要性の前に、まずは日々の暮らしの安定が重要と感じている。仕事は、各企業の過当競争の場であり、その場で個人のライフを尊重できるような状態とは言い難い。考え方を変えるところからワークとライフを最良にするための取り組み、教育や、社会的な活動を行い、豊かさを感じられ安心して生活できる社会作りを目指して、男女が協力している社会を目指したい。	男性・40歳代

【4. DV、セクハラについて】

サブカテゴリー	意見	性別・年齢
	男でも女でも暴力やいやがらせをする人は多い不幸に身近にそう云う方がいたら大変とは思いますが自分自身が意思を強くして対応、解決していくしかない。	男性・60歳代

	再婚相手の男性が女性の子どもの暴力をふるっても暴力をした男性、実の父親の事は特に悪く言われません。母だから、父だからではなくまずは1人の人間として命の大切さ、人との関わり方、人を愛することを多く学ぶ機会があればと思います。	女性・30歳代
	”いじめ”は大人の世界でもよくあることです。セクハラだけでなく、パワハラも大きな問題だと思う。	女性・50歳代
	セクハラ問題はもちろんだが今気になるのはパワハラ問題です。いやな思いをしない町づくりに積極的に活動してください。	女性・50歳代

【5. 男女共同参画の推進について】

サブカテゴリー	意見	性別・年齢
人事面について	岡崎市は近隣市町より女性参画。起用が消極ではないかと思いがいかがでしょうか。	女性・70歳以上
女性の社会進出	女性議員が増える事、それを周囲がサポートする事。女性の意見を尊重する社会作りが必要。	女性・20歳代
アンケートについて	問36の11の項目を作ることが男女共同参画班の意識の低さがうかがえる。 男女共同参画社会をつくるならズブのしろとを集めて意見してもらったほうが独自性のものが出来るのではないのでしょうか。アンケート項目も自由記載にしたほうが良いのではないかと。	男性・40歳代
行政による情報発信	若い人へのPRを強化。 私自身、共同参画の言葉を知り、参加する楽しみを知りました。	女性・70歳以上
行政による情報発信	国の取り組み→県→岡崎市のようなカスケード活動は、現在ないのでしょうか。全体像がよく見えません。 モデルケース（自治体活動）を参考にして岡崎市でトライし、岡崎らしさを徐々に出していく方法で着実に実現するべし。	男性・60歳代
行政による情報発信	岡崎市の産業構造や就労状況等を踏まえた、地域の実状を反映させたプランとしていただきたい。 今の岡崎市がどうか、という点を中心にとらえて、新プランの策定をお願いしたいと思います。	男性・30歳代
行政による情報発信	岡崎市政だよりを活用して、男女共同参画社会づくりをアピールし、参画する為の手順を告知する。また、岡崎市図書館交流プラザの年度計画、月次計画を具体的に告知する。	男性・60歳代
	「男女共同参画社会づくり」は、男女平等社会実現への基盤になると考えます。	女性・70歳以上
	各種制度の充実は大切であるが、個人々が甘えることなく、個人の努力で不足な部分を補充することに努めることが必要。	男性・60歳代
	女性の活躍を促進することはすばらしく、国の方針にも沿う形と思われます。しかし、高齢化が更に進めば役割の固定化が逆に進むと思う。まずは少子化対策を重点的に実施することが優先だと考えます。	男性・50歳代
	「男女」のみならず「老若男女」で、まずは、隣近所から、さらに町→市→県→日本国→世界中の誰もが、思いやれるようになればと思います。	女性・70歳以上
	まずは市政が率先し取り入れ、取り込む事。どんな議論よりイメージ付け、意識付けの浸透が必要。	男性・50歳代
	話し合いをしっかりとって、市民が納得出来る社会づくりを進めて下さい。	男性・70歳以上
	アンケートだけに終わらず、実施できる事は早速実行してほしいと思います。	女性・60歳代
	みなが幸せに暮らせる社会になると良い。	女性・60歳代
	地域格差があると思うので、岡崎市全体が同じ思いになるよう取り組んでいくことも必要かと思えます。	女性・60歳代

【6. 意識改革や意識啓発について】

サブカテゴリー	意見	性別・年齢
社会福祉サービス・補助金（給付金、助成金）等の支援	それぞれの人、家庭が、経済的、生活的な自主ができるよう、教育や援助をしていただきたい。	女性・60歳代
女性の社会進出	私達の年代では嫁はこうあるべきという古い考えに縛られてきましたが、良いところもあります。 子どもが3才位までは親が躰をして、学校に上がったら働きに行くのが良いと思います。	女性・70歳以上
女性の社会進出	女性も外で働くことが当たり前になってきている現在でも家事は女性の仕事という意識のままであるような気がします。 子どもの頃から男女関係なく、家事は家族皆で取り組むことが必要なのだと学校や家庭で学ばせることが男女共同参画社会を推進していくのに重要だと思います。	女性・30歳代
アンケートについて	普段あまり、男尊女卑を感じていなかったのですが、このようなアンケートをすることで、社会では、まだまだ、男尊女卑の意識があるのだと思いました。	女性・20歳代
アンケートについて	何かが変わればと思って参加したが、アンケートの内容があまり意味のないような気がした。もう少し工夫すべき。	女性・50歳代
行政による情報発信	男女共同参画基本計画として岡崎市が取り組んでいること自体知らなかった。このアンケートを実施して良い取り組みだと思ってもっと住民に計画自体を広めた方が良いと思います。	男性・50歳代
行政による情報発信	「男女共同参画社会づくり」この活動内容を全く知らない市民へのPRはどのようになっているか。	男性・60歳代
行政による情報発信	岡崎市の本活動に対する認識はありませんでした。次期ステージの活動内容を検討するに当たり、まずは、これまでの活動結果に対するまとめ・反省をすることが適すると思われまます。	男性・50歳代
行政による情報発信	事前知識もなく思いあたることはありません。 市が策定している「新ウィズプランおかげさき21」も承知していませんでした。 市民に意見を求める場合は十分な周知期間と機会の必要性を感じます。	男性・60歳代
行政による情報発信	税金のムダと思う。	男性・40歳代
行政による情報発信	岡崎市が、この様な活動をしている事を、今回初めて知りました。	女性・40歳代
	家庭職場での男女の話し合いが大切、役割分担は、どの家庭、職場に置いても、比較が難しいため、一概には言えないが、お互いを思いやる事が一番大切。子どもの頃からの親から子への思いやりを見せて育てる事が大切だと思う。	男性・60歳代
	各家庭に依り事情が違うので家族で話し合いその家庭の最善方法で男女協力していければ良いと思います。	女性・70歳以上
	今後、岡崎市でも男女共同参画・男女平等についての話し合いや学習の場を開催して頂き、よりよい社会づくりに努めていただきたい。	男性・50歳代
	女性の学習・研修は多いようであるが、男女同席で行うと効果があると思う。	男性・60歳代
	男女共同というのは、根本的に自己責任で、自分の事は自分でやることであり、その教育をしなければならない。	女性・70歳以上

	各家族内での日々のふれあい、話し合いコミュニケーションが第一番目の基礎だと思います。	男性・70歳以上
	最近の若い人達は、子育て、家事等よく協力し共働きの人が多いためか、良くやっている。女の人でも頑張っているが男子の協力も出来つつ有る。 老夫婦が仲良く互いを思いやり手をつなぎ歩いて（助け合う）いる姿を見るとほほえましい。	女性・70歳以上
	女性が権利を主張するのであれば、それに伴う義務が発生することを理解させる教育・研修が必要である。	男性・50歳代
	意識を高めるために研修や講座を実施していると思うが、そういったものは、もともと意識の高い人にしか参加してもらえないのではないか。まずは社会全体の意識改革が必要だと思う。	女性・40歳代
	家事を一切しない男性への社会的非難を強化して欲しい。	女性・40歳代
	男女共同参画社会と言いますが、まだまだ”男は仕事、女は家事・育児”という考えをもつ人は、多いと思います。	女性・50歳代
	男女平等社会、このことばで、スタートしてしまうと、実現は無理だと思います。男女で、もうすでに男が女より前に出ているからです。人間平等社会の実現が必要です。	男性・60歳代
	女性の意識を高める事が重要であり、男性が優遇されているものではない	男性・30歳代

【7. 教育について】

サブカテゴリー	意見	性別・年齢
	教育界が、始めから、男女共同参画づくりに、子どもを教育してくれ。 今もまだ古臭い、明治、江戸時代の意識があるからだと思う。	女性・70歳以上
	私は問36にありますように ①幼い時から男女平等の理解を深める教育が大切だと思います。②女性も男性に甘えることないよう③社会へ出たら女性登用の道を開き、それをサポートすることが大切だと思います。	女性・70歳以上
	「平等意識を育てる学校教育」という言葉・考え方を、このアンケートを通して初めて知りました。 子どもたちに、将来職場や家庭での育児・家事・介護は男女が平等に協力して行うものだと教えこむことで、平等意識を持つ人が増えると思います。	女性・20歳代
	基本的考えに関わる事象なので、低学年教育からの一貫した教育の取り組みが必須だと感じます。	男性・60歳代
	皆が意識しなければ出来ない事だと思います。大きくなってからでは遅いと思うので、幼年期から小学→中学生が大切で、まずはいじめをなくさなければ男女平等なんて出来ないと思います。	女性・50歳代
	過去の経験を含めて、個人差が激しく、早期整備を急ぐことではない。それよりも、子どもたちへの教育の方が重要だと考える。	男性・50歳代
	社会、家庭での子どもに対する教育。小さい時から教えることなど、まず人を育てることが必要ではないではないか。	女性・70歳以上
	道徳教育はこれからの子どもの教育には大変重要な教養です。私達は小学校入学から道徳教育はしっかり身にしみこんでいます。	男性・70歳以上
	女性が安心して社会で活動出来るのは子どもの教育であり家庭にあると思う。教育の基礎づくりに力を入れて下さい。 親の倫理感が無い家族制度に問題あり。子は親を見て育つ、親の教育が第一。	女性・70歳以上
	男女共同参画社会づくりにおいてだけでなく、子どもに対する教育（家庭学校）が重要だと思います。	男性・50歳代

	男の体のしくみ、女の体のしくみを幼少の頃からしっかり教育し、互いを理解し合える人間に育てることで性犯罪等事件のない住み良い社会になると思います。	女性・60歳代
	”男女平等”と声高に叫ぶのではなく、男女関係なく個人の素質を生かす教育、才能をのばす教育が必要と思っています	女性・50歳代
	全ての問題は経済的な貧困が招いていると考えます。もう一つは教育の問題です。経済の問題、教育の問題を解消することで男女の問題自体が無くなると思う。	男性・40歳代
	家庭の中で男女共同、平等意識を実践すること。 学校（義務教育の段階）でよく教えること。	男性・70歳以上
	男女の性差からくる区別を差別とは思わないし、行きすぎてほしくない。ただ、他人を思いやれる想像力はどうか、義務教育中に育ててほしい。	女性・30歳代

【8. 地域社会について】

サブカテゴリー	意見	性別・年齢
施設の充実	保育施設学童保育施設の充実、地域ぐるみの子育て支援などなどハード面だけでもまだまだサポートが足りないと思います。	男性・50歳代
地域福祉	60才過ぎた現在、単身世帯も多いと思います。民生委員だけでは無く、課を作り見守りを充実させる事を希望します。	女性・60歳代
	子ども会の役員はなぜ女ばかりなのか。 もっとうまく役員が回るようにしてほしい。	女性・40歳代
	町の行事が多い、一人ひとり生活がちがうのだから会長など役員は選んでほしくない。	女性・40歳代
	市民による市民のための市民活動。室内の会議だけではなく青空・町中・広場・公園等でだれもが自由に参加でき、話ができる、話が聞けるものがよい。	男性・40歳代
	以前、消防団入団について問い合わせを行った際「男性のみ」という返答があり、女性には、婦人会があると言われた。 このような調査で男女共同参画社会についての意見を聞くことも大切だと思うが、「男性だから」「女性だから」というのは、行政にも強く根付いていると思う。	女性・20歳代

【9. 子育てについて】

サブカテゴリー	意見	性別・年齢
施設の充実	経済的援助はやめるべき。なまけ者を育てることになる。 保育や介護の施設を充実させる。	男性・70歳以上
施設の充実	育児・保育施設や支援事業の充実など、具体的な施策を積極的に推進すべき。 観念論ではなく、実践論優先で力強く踏み出してほしいと思います。	男性・70歳以上
施設の充実	保育園には園児が10人ほどでも1園がありますが1ヶ所に合同することができないだろうか。	女性・70歳以上
施設の充実	児童館を充実させてほしい。	男性・30歳代
社会福祉サービス・補助金（給付金、助成金）等の支援	日本社会の全体的に、女性が子どもを産み育てる事があたりまえとされている。 子どもが育ち、女性が働こうとしても年齢的、経験不足が足止めとなる。女性が一生を暮らしていくには、不安の多い世の中である。	女性・50歳代
社会福祉サービス・補助金（給付金）	母子家庭で子育てをしている人は、だれかが応援してくれることを望んでいると思う。	女性・50歳代

金、助成金)等の支援		
社会福祉サービス・補助金(給付金、助成金)等の支援	今の子育て世代の人達には行政の力が必要かも知れません。気軽に相談出来る窓口をふやしてほしい。	女性・70歳以上
社会福祉サービス・補助金(給付金、助成金)等の支援	今後日本の人口は急激に減少していくと言われていています。その原因の一つが出生率の低下だと思います。不安定な経済状態では結婚出来ず、子どもも産めません。	女性・30歳代
社会福祉サービス・補助金(給付金、助成金)等の支援	目的を明確に。周知してもらい、健全な子ども達を増やすことこそ最終目的だと思う。子どもの心身を育てるのは母親の役というわりにひとり親世帯へのサポートはない。	女性・30歳代
社会福祉サービス・補助金(給付金、助成金)等の支援	ひとり親への経済支援が低いと思います。保険料や保育料も一般家庭と同じだけ払わなければならない。市からの援助を受けないとやっていけない。一人親への支援をお願いします。	女性・30歳代
女性の社会進出	今は、家事、子育てで毎日精一杯です。どちらかというとも子どもが大きくなっても、仕事復帰はしたくない。専業主婦でいたいと思います。家事、育児と仕事の両立は仕事の時間が短時間であっても、私にはムリです。	女性・30歳代
地域福祉	少子化→女性は子どもを産む必要がある ↓ 育休 ←男性 仕事復帰の環境 ↓ ←協力 保育施設の充実 ↑サポート 行政	男性・30歳代
地域福祉	男女平等や、女性の再就職を考える前にももう少し子育てのための援助や保育所等の施設の充実化をしてほしい。子どもが多い家庭にはもっと積極的に支援金など取り組んでもらい、充実した子育て環境をお願いします。	男性・30歳代
地域福祉	子育てが楽しい社会、子育てを楽しめる地域にしていくことが望まれると思う。男でも女でも関係なく自分の子ども以外も支援できる様な仕組みがほしい。シルバー人材の活用、シルバーボランティアの活用ができると思う。「ラクラク子育てタウン岡崎」「子どもと遊べる町岡崎」	男性・50歳代
地域福祉	社会が子どもを育てる。	女性・70歳以上
労働問題	子どもができた後、仕事をしようと面接をしても必ず「子どもの世話はどうするのか」「すぐに休むのでは」と言われ仕事が決まらなかった。ひとり親家庭なので、仕事も休めない。	女性・40歳代
	子育て中で忙しいため、親が参加する行事を減らしてほしい。	女性・30歳代
	子育てしながら、仕事と家事をしています。だからもうくたくたです。	女性・40歳代
	男女平等で女性が仕事する事により、子どもがさみしい思いをしたり、母親が大事な役割をおろそかにすると、将来、子ども達の心が未発達のまま大人になり、いろいろな問題が起こる心配がある。	女性・40歳代
	全て、男女平等で子育てに、かけるようなことはしない方が良いと思う。母親は子どもの小さい時は家に居てしっかりみる。その愛情が子どもにいき育っていくと思う。	女性・70歳以上

	男の能力と女の能力の違いはあります。男女共同参画は口だけでなく自然体で子育てをしてほしい。子どもはそれなりに育ちます。	女性・70歳以上
	共同参画社会も底辺になるものは愛情を持って子育て出来る環境であって、それがあって始めて社会づくりが出来るのだと思います。働く事も大切であるが、未来の子どもの教育を夫婦で取り組むべきだと思う。	不明・70歳以上
	男女共同参画社会の実現は大切です。未来に活躍する子どもは過保護ではなく放任せず両親が真心を込めて大切に育てて欲しいと思います。	女性・70歳以上

【10. 介護について】

サブカテゴリー	意見	性別・年齢
地域福祉	介護に関しても、男女平等に関しても、もっと地域ネットワークをしっかりとさせるべきだと思います。	男性・20歳代
	嫁が姑などの介護をする事が当たり前ではない。息子も必ず参加、協力すべき。	女性・20歳代

【11. 高齢者、障がい者、ひとり親家庭の人について】

サブカテゴリー	意見	性別・年齢
地域福祉	戦後の苦しい時代を耐え生き抜いた老人達の現今が孤独死に至らないよう、相互扶助の精神を大切にして声掛け等制度をお願いしたい。	女性・70歳以上
アンケートについて	加齢と共に社会、地域の活動に参加する機会が少なくなっておりアンケートに協力出来る事が限定されています。理解出来る範囲での回答となりました	女性・70歳以上
	町内においても高齢化が進み、デイサービスの車を多く見るようになりました。町内においてはまだ、おだやかな生活が送られているのかと思います。	女性・60歳代
	老人を対象にした計画をもっと多く作ってほしい。行事を作ればデイサービスばかり行かなくてもすむと思います。	女性・70歳以上
	今後は年寄りを大切にして下さるようお願いいたします。	女性・70歳以上

【12. 心身の健康づくり・維持について】

サブカテゴリー	意見	性別・年齢
社会福祉サービス・補助金（給付金、助成金）等の支援	出費が増え、収入が減って行く日々を不安に思うと共に毎日健康で暮らせる日々を願っています。	女性・70歳以上
	女性は育児、家事、姑、子の全てについて、現実には、身体的、精神的に続かなくなる。	女性・70歳以上
	これから更なる高齢化社会をどのように受け入れていくかを考えれば、やはり健康であると思う。	不明・60歳代

【13. その他】

サブカテゴリー	意見	性別・年齢
社会福祉サービス・補助金（給付金、助成金）等の支援	シングルマザーでパートタイマーとして働いている人がいますが、生活保護（母子手当）を受けているのにもかかわらず3ナンバーの車を買って通勤しています。市の職員はちゃんと調べて母子手当を出しているのでしょうか。税金の使い方に不公平を感じます。	女性・50歳代
社会福祉サービス・補助金（給付金、助成金）等の支援	私共は国民年金だけで暮らしています。もう少し年金額を上げて下さい。今は二人であるが、1人になると大変です。これは市長のひと声です。政府にお願いしなさい。	男性・70歳以上
社会福祉サービス・補助金（給付金、助成金）等の支援	45才過ぎてから離婚したので年金が少なく生活が大変である。	女性・60歳代
アンケートについて	このアンケートは、長すぎて書いている間にいやになって来る。	男性・70歳以上
アンケートについて	このアンケートの意味はなんですか。この結果はいつ反映されるのですか。アンケートを無作為に送りすぎです。障害者に聞いてどうするのか。このアンケートはまず企業に出して下さい。 「男女共同参画」もわかりにくい。これを公表して、なにか変わるのか。	女性・50歳代
アンケートについて	高齢者にこんな質問は必要ない。2時間もかかりました。	女性・70歳以上
アンケートについて	老後となって年金生活のため、設問に答えることが難しい。私の時代での考え方が年代では変化していると思います。	男性・70歳以上
アンケートについて	いくつかの設問に、おかしいと思われる所があります。これは国の基準、標準そのまま持っているのでしょうか。職場の未婚、既婚者、子どもがいる、いない人、男性、女性、20歳代、30代、40代、50代の人々でチェックしていますか。	女性・40歳代
アンケートについて	このアンケートについて答えられる人は役所関係に勤務している経験のある方であり、役所人間から見たアンケート内容で大変答えづらい。このアンケートに答えるだけで参画意識が無くなってきた。大変不愉快になった。	男性・60歳代
アンケートについて	くだらないアンケートは税金の無駄使いです。市役所もずいぶんと”ひま”なことですな。	男性・70歳以上
アンケートについて	3,000人を無作為とありますが、シングルマザーに男性が家のことをやる必要性を問われても、答えようがないです。本当のことを知りたいなら無作為にせず、子育て中の家で、核家族で、共働きの方を、ピックアップして調査した方がいいと思います。	女性・40歳代
アンケートについて	質問が変です。問1分野とは。問3各家庭で事態は異なり、理想はない。問7その子の性格などにより育てる。（男女の区別は必要です）問9「女性が」というのは。問10「育児に参加」というのは。問11教育の現場はあくまでも一部分。学校は今や中心ではなく塾、テレビ、ゲームなど生活時間でのできごとをすべて考慮すべき。	男性・60歳代
アンケートについて	問35は、ほぼ全て○をつけたいような内容であった。分かっているながら、聞かれているような気がしました。	女性・20歳代
アンケートについて	無記名なのに、どうして提出していないのがお分かりなのでしょう。自由なのではないのですな。結局、提出する事が求められるのですな。	女性・60歳代
アンケートについて	アンケートの結果がでましたら知りたいので依頼した人あてに郵送してほしい。	女性・50歳代

アンケートについて	この調査は無記名式とのことですが、返信用封筒にバーコードがあり、だれが返送したか特定されると思います。「返送した方は特定されます」と表示すべきだと思います。	男性・50歳代
アンケートについて	調査の結果や、効果を見たり聞いたりした事はありません。私だけでしょうか。	女性・60歳代
行政による情報発信	岡崎市へ引っ越して2年。まだ岡崎市についてわからない事だらけです。	女性・20歳代
	今、家の廻りを掃く人を見ません。溝にはゴミがいっぱいたまっています。	女性・70歳以上
	老人も若い人も自分さえ良ければよい人が多い。交通ルールを守らない人も多く見ます。	女性・70歳以上
	予算の取り方は矢作川より東側（市内）が多く取り西側（矢作川より西）にあまり配分されていない。	男性・70歳以上
	本当の弱者に対する政策をお願いしたい。	男性・40歳代
	ゆとり教育などとりくんできて工夫はみられるが全くダメ。それにしても現代はガマン強い人が少ない。故にわがままな人が多い。	不明・60歳代
	人生設計を立てる際、10年後、20年後が計画できるような行政の安定、信頼が出来るようなものであってほしい。大きな社会の変化のない将来が展望できる社会であってほしい。	男性・60歳代
	法律相談の時の先生はいいかげんな人が多かった。先生をよく選別して相談にのってほしい。	女性・40歳代
	年金生活に余裕があり楽しく暮らしたいです。	女性・70歳以上
	早くから自分自身の意識を高め健康に留意し食事、運動にもっと関心を持つように指導して頂きたいと思います。老人が生きていきやすい社会になるよう望んでいます。	女性・70歳以上
	今の若い男の人は子どもさんの面倒もよくみていられます。優しいお父さんが多くなりました。老人からみるともう少し威厳のあるお父さんが良い。	女性・70歳以上
	男女共同参画社会づくりも重要な課題ですが「住みやすいまち 岡崎」についても取り組んでもらいたいです。育児・保育施設の充実。市街地の渋滞緩和。山間部の活性化。防災・防犯の向上。	男性・30歳代
	今は年金生活ですのでもっと若い方に相談して下さい。	女性・60歳代
	広場（運動場）らしいところがありません。子どもと老人とのふれあいの場所がほしい。跡地を公園にして下さい。コンビニも1ヶ所ほしいです。	女性・70歳以上
	地味な岡崎も何かを努力しトップとして輝くものが1つあれば活力のもととなることでしょう。目標を持って努力したいものです。	女性・70歳以上
	今、最も心配しているのは国の政治です。特定秘密保護法、武器輸出の解禁、集団的自衛権の行使など私たちの生活基盤を脅かす政策が進められています。市から反対の意見をあげて行ってほしいです。	男性・60歳代
	岡崎市民は私を含め保守的で協力すると云う概念が薄れている。最近、家庭単位でものを考え、地域への奉仕の気持ち失われている。	男性・70歳以上
	まだまだ元気な高齢の方が沢山みえます。もっと外に出られる場所で会話する事が大切だと思う。	女性・70歳以上
	年を重ねるほどに考え方がかわっていく自分があります。その時々々の状況で前に進める社会が早く出来るようにと思っています。	女性・50歳代
	税金を上手に利用して下さい。	女性・60歳代
	相変わらず、市役所等、公的機関に行くとお上の態度であるのが変わっていかない。	女性・50歳代

第12章 まとめ

1. 男女共同参画社会の形成のための意識啓発について

- 項目別の現状認識について（問1）は、『男性が優遇されている』場面が社会全体で約77%と高くなっており、政治の場で、社会通念・慣習しきたりをはじめ、職場、家庭生活、法律や制度上で半数を超えています。家庭生活については、平成20年度調査よりも『男性が優遇されている』がやや低くなっています。
- 家庭生活における役割分担について（問5）は、特に、食事のしたく、食事の後片付け、洗濯をし、干す、洗濯物を取り入れ、片づける、食料品等の買い物、掃除、家計の管理という家事は女性に依存しています。しかし、平成20年度調査と比較すると、食事のしたく、後片付けをする、食料品等の買い物、掃除、家計の管理などで、若干女性の役割が軽減されたと思われます。
- 男女共同参画についての話し合いや学習について（問2）では、「話し合ったり、学習したことがない」が半数を超えており、今後も職場や家庭などの様々な場での話し合いが必要です。
- 「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方について（問3）は、「どちらともいえない」が43.0%と多くなっていますが、『賛成』が約32%、『反対』が約25%と賛成意見のほうが多くなっています。
- このように、家事などは女性に依存していることが多くなっており、男女の役割分担のあり方について職場や家庭などで啓発する余地がまだあります。

2. 男女平等教育の推進について

- 項目別の現状認識（問1）については、学校教育の場では「男女平等である」が6割弱見られ、将来の世代において男女共同参画社会の一層の推進が期待されます。
- 男女平等意識育成のための教育現場における取組内容について（問11）では、「生活指導等で男女の区別なく能力を生かせるように配慮する」が5割弱で最も高く、「男女ともに家事や育児介護などについて学習する時間を設ける」と「異性を思いやる気持ちの大切さを教える心の教育を充実させる」が4割弱となっています。平成20年度調査と比較すると、「生活指導等で男女の区別なく能力を生かせるように配慮する」がやや高くなっており、学校教育の場、家庭の子育ての意識においても徐々に男女共同参画社会に向けた土壌が養われていると考えられます。

3. 地域社会活動での男女共同参画について

- 地域活動の役割分担について（問20）では、『主に女性が担当』（「主に女性が担当」＋「女性が多いが男性も分担」）が③集会などでのお茶くみ、調理が7割弱で多くなっています。『主に男性が担当』（「男性が多いが女性も分担」＋「主に男性が担当」）は、①地域役員や催しものの企画、決定、②集会などの運営、取り仕切り、④祭りや葬儀の運営、取り仕切り、⑥会長などの役職で、半数を超えています。
- 本調査では平成20年度調査と比べて『主に女性が担当』が、③集会などでのお茶くみ、調理や、⑤PTAや保護者会の運営、取り仕切りでやや低くなり、『主に男性が担当』が、②集会などの運営、取り仕切り、④祭りや葬儀の運営、取り仕切りで低くなっており、若干、女性の裏方的な役割を男性も担い、男性のリーダー的役割を女性も担うようになってきています。

4. 働く場での男女共同参画について

- 女性が仕事を持つことについて（問 12）は、「子どもができたら職業（仕事）をやめ、大きくなったら再び職業（仕事）を持つほうがよい」が約 45%で、次いで「子どもができて、ずっと職業（仕事）を持ち続けるほうがよい」が約 33%です。特に、女性の 20、30 歳代では「子どもができて、ずっと職業（仕事）を持ち続けるほうがよい」の方が、「子どもができたら職業（仕事）をやめ、大きくなったら再び職業（仕事）を持つほうがよい」よりも高くなっています。
- 安心して働ける環境について（問 14）では、「仕事と家庭の両立に職場が理解し協力する」が約 47%で際立って高く、女性では「女性の産前・産後・生理休暇、育児・介護休業を取りやすくする」が 2 割強でやや高くなっています。
- 職場におけるセクハラについて（問 15）では、被害を受けたことがあるのは「自分が直接経験したことがある」と「同じ職場の女性で経験した人がある」が 15%前後みられます。特に女性では「自分が直接経験したことがある」が 2 割を超えています。被害を経験した当事者がいた場合の相談先（問 16）では、「相談しなかった」が約 25%見られ、また、セクハラ対策（問 17）としては回答者全体で「事業主が対策に取り組むこと」や「一人ひとりが自分の行動に自覚をもつ」、「相談機関を設置すること」が高くなっています。
- 若い女性において、子どもができた際に職業を続ける希望が増えており、そのためには職業と家庭の両立に職場が理解し協力すること、あるいは女性の方が受けやすいセクハラの対策などが求められます。

5. 仕事と家庭の両立について

- ワーク・ライフ・バランスの認知（問 18）では、「全く知らない」が半数近くで、「ことばは聞いたことがある」と合わせて 8 割近くが内容を理解していません。
- 生活における仕事やプライベートな時間の優先度（問 19）については、【希望】としては「仕事・家事・プライベートを両立」が約 3 分の 1 で、次いで「プライベートな時間優先」、「家事とプライベート優先」が 1 割を超えています。
- 生活における仕事やプライベートな時間の優先度の【現実】では、「仕事優先」が 4 割弱と多く、「仕事と家事優先」と「家事優先」が 1 割台です。これは、女性では「家事優先」と「仕事と家事優先」が 2 割弱見られ、男性では「仕事優先」が 6 割近くに達しています。
- 【希望と現実の乖離】を見ると、特に乖離している項目は、「仕事優先」が現実では高く、特に男性ではその差が大きくなっています。「仕事・家事・プライベートを両立」と「プライベートな時間優先」が現実では低い割合です。
- プライベートや家事を優先したいという希望はあるが、現実には仕事優先となっているのが実情です。

6. 子育て・介護における男女共同参画について

- 家事や育児、介護などを男女で分担していくために必要だと思うこと（問 6）では、「家族で役割分担についてよく話し合う」、「仕事中心の考え方をあらため、仕事と家庭生活を両立できる生き方を普及させる」、「保育園や介護施設・病院等の福祉サービスを提供する施設の整備を進める」に回答が集まっています。女性では、「保育園や介護施設・病院等の福祉サービスを提供する施設の整備を進める」が高くなっています。
- 男性がより育児に参加していくために必要だと思うこと（問 10）は、「男性自身が育児に取り組む意識を持つこと」が 55%を超え、「男性が育児休業制度を利用しやすくす

ること」、「男性の育児参加を妨げるような社会通念が変わること」が高くなっており、女性と男性ともに同様の意識となっています。また、20歳代で「男性が育児休業制度を利用しやすくすること」を求めています。

- 女性が安心して子どもを産み育てるために必要だと思うこと（問9）は、「出産・育児に対する経済的な支援の拡充」が5割強、次いで「出産・子育て後に再就職しやすい環境づくり」、「子育て中の柔軟な勤務形態の普及」が高くなっています。
- 出産後も仕事を続けたい女性が増えている中では、男性自身が育児に取り組む意識を高めることや、特に女性から出産・育児や家事、介護に対する社会的な支援などが強く求められています。

7. 高齢者、障がい者、ひとり親家庭等の人々について

- 高齢者や病人看護を女性が行っている現状について（問24）は、「男性と女性が協力して介護・看護をするべきだと思う」が約67%で最も多く、「仕方がないと思う」は25%程度です。
- 一方、自身の要介護時における身の回りの世話について（問26）では、「介護保険制度などのサービスを利用する」が3割強で、「介護保険施設を利用する」が25%程度です。女性では、「介護保険施設を利用する」と「介護保険制度などのサービスを利用する」3割以上と高く、男性では「配偶者が世話をする」が2割強となっています。
- 社会的な支援が求められる一方で、自身について男性は配偶者頼りの意識も見られます。

8. 人権の侵害やDVについて

- 人権が侵害されるもしくは尊重されていないと感じる場合について（問27）では、「ストーカーや痴漢行為」と「夫婦間・恋人同士の身体的・精神的な暴力」が5割を超えて特に高くなっています。女性で回答割合が高い項目が多く、「社会通念上、女性は男性の後に従うべきとされていること」、「売春・買春行為」などが男性よりも高くなっています。
- DV（ドメスティック・バイオレンス）について（問28）では、「テレビや新聞で社会問題になっていることを知っている」が75%を超え、「DVが人権侵害であることを知っている」が5割を超えています。また、「何らかの暴力を受けたことがある」と「身近な人から相談を受けたことがある」が1割前後見られ、特に女性では、これらの暴力を受けた、相談を受けた経験が男性よりやや高くなっています。
- 暴力を受けたという回答者の相談状況について（問29）は、「相談しなかった」が5割を超え、これらの人が相談しなかった理由（問30）では「相談してもむだだったから」が5割を超えています。
- 具体的な支援内容について（問33）は、「被害から逃れるための緊急一時保護施設（シェルター）などの設置」と「被害から逃れた方が自立して生活できるような、経済的支援、就業支援等」、「家庭の中のことでも気兼ねなくうちあけて相談できる窓口」が3割を超え、さらに「被害者・加害者の相談にいつでも電話で対応できる相談窓口」に回答が集まっています。特に女性では「被害から逃れた方が自立して生活できるような、経済的支援、就業支援等」が男性よりも高くなっています。
- このように、DV被害者に対して相談を促すことや気軽に相談できる窓口の設置、その後の緊急一時保護、経済的支援や就業支援などが求められます。

9. 男女共同参画の推進方策について

- 今後、男女が家事、子育て、介護等に積極参加するための必要事項（問 35）では、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりをあらためる」が4割を超えています。また、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること」と「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」、「仕事中心という社会全体のしくみをあらためる」、「誰もが男女共同参画について関心をもつ」、「子どもが将来家事などを男女で分担するような子育てや教育をする」が3割を超えています。
- また、女性では「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」と「女性が経済的精神的に自立する」が男性よりも特に高く、男性では「仕事中心という社会全体のしくみをあらためる」が女性よりも高くなっています。
- 男女平等社会実現のための岡崎市への期待事項（問 36）では、「高齢者や病人の在宅介護サービスや施設または、福祉施策の充実」と「育児・保育施設や支援事業の充実」が4割を超え、「平等意識を育てる学校教育の充実」と「女性の就労機会や労働条件の男女格差を是正するための働きかけ」、「ひとり親家庭などへの援助や福祉対策」が2割を超えています。
- また、女性では「ひとり親家庭などへの援助や福祉対策」、「女性の就労機会や労働条件の男女格差を是正するための働きかけ」などが男性よりも高く、男性では「平等意識を育てる学校教育の充実」と「育児・保育施設や支援事業の充実」が女性よりも高くなっています。
- 男女共同参画社会の実現に向けては、夫婦や家庭でのコミュニケーションや社会的通念をあらためること、仕事と生活のバランス（ワーク・ライフ・バランス）、家事、子育て、介護などの役割分担をあらためることが求められています。社会的支援としては、介護・福祉や育児・保育施策へのニーズなどが高くなっています。

(参考資料)

アンケート調査票

岡崎市男女共同参画基本計画「新ウィズプランおかざき 21」

見直しにあたっての市民意識調査のお願い

日頃は市政にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

本市では、男女がお互いにその人権を尊重しつつ責任を分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる「男女共同参画社会」の実現に向けて、平成 23 年 4 月に「新ウィズプランおかざき 21」を策定し、市民の皆様とともに取り組んでまいりました。

「新ウィズプランおかざき 21」は計画期間が平成 27 年度までであり、その見直しを行うために市民の方から 3,000 人を無作為抽出し、岡崎市の現状やお考えをお聞かせいただきたいと思いますと考えました。

本調査の結果については、今年度末に広報などを通じて皆様にお知らせしていく予定です。

お答えいただいた内容は統計資料としてのみ取り扱いますので、個人のご意見やお考えが他に漏れることは一切ございません。

お忙しいところ、誠に恐縮ですが、この調査の趣旨をご理解いただき、ご回答くださいますようお願い申し上げます。

平成 26 年 7 月
岡崎市長 内田 康宏

◆ご記入にあたってのお願い◆

○この調査は無記名式ですので、調査票にお名前を記入していただく必要はありません。

○ご回答は、当てはまる項目の番号を、指定の数だけ○で囲んでください。

○「その他」の項目を選ばれた場合は、() の中に具体的にご記入ください。

○調査票のご記入が終わりましたら、お手数ですが、同封の返信用封筒に入れて、

8月19日(火)までにご返送ください。(切手は不要です。)

お問合せ先

岡崎市 文化芸術部 文化活動推進課 男女共同参画班

電話：(0564)23-6222 FAX：(0564)23-3165

問2 あなたは、男女平等・男女共同参画についての話し合いや学習をしたことがありますか。主なものをお答えください。(○は1つ)

1. 家族で話した
2. 友人と話した
3. 学校で話したり、学習した
4. 職場や労働組合で話したり、学習した
5. 男女平等・男女共同参画に関する研修会や講座などに参加した
6. 話し合ったり、学習したことはない
7. その他(具体的に: _____)

問3 あなたは、「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方について、どのように考えますか。(○は1つ)

1. 賛成
2. どちらかといえば賛成
3. どちらともいえない
4. どちらかといえば反対
5. 反対

問4 あなたは、岡崎市において地域の慣習やしきたりで、現在も続いていると感じるものがありますか(○は2つまで)

1. 自治会やPTAなどの役員には夫の名前を書くが実際は妻がやっていると思う
2. 自治会やPTAなどの役員は男性に任されることが通例になっていると思う
3. 公共の場では、女性の意見よりも男性の意見が優先されている傾向があると思う
4. 行事における雑用は主に女性が行っていると思う
5. 既婚女性は「〇〇さん家のお嫁さん」「〇〇ちゃんのお母さん」と呼ばれていると思う
6. 特にない
7. その他(具体的に: _____)



家庭生活についてお聞きします。

問5 あなたの家庭では、次のことをどなたが主に行っていますか。(それぞれに1つ○)

	主に女性が担当	女性が多いが男性も分担	男性と女性が同程度	男性が多いが女性も分担	主に男性が担当	自分のみ(単身者)	該当なし
①食事のしたくをする	1	2	3	4	5	6	7
②食事の後片づけをする	1	2	3	4	5	6	7
③ごみやリサイクルの分類をする	1	2	3	4	5	6	7
④ごみを出す	1	2	3	4	5	6	7
⑤洗濯をし、干す	1	2	3	4	5	6	7
⑥洗濯物を取り入れ、片づける	1	2	3	4	5	6	7
⑦食料品等の買い物をする	1	2	3	4	5	6	7
⑧掃除をする	1	2	3	4	5	6	7
⑨風呂の掃除をする	1	2	3	4	5	6	7
⑩子どものしつけをする	1	2	3	4	5	6	7
⑪乳幼児の世話をする	1	2	3	4	5	6	7
⑫介護・看護をする	1	2	3	4	5	6	7
⑬家計の管理をする	1	2	3	4	5	6	7
⑭高額なものを購入する	1	2	3	4	5	6	7

問6 あなたは、家事や育児、介護などを男女で分担していくために必要だと思うことは何ですか。(○は1つ)

1. 家族で役割分担についてよく話し合う
2. 男性は仕事、女性は家庭という考え方をあらためる
3. 仕事中心の考え方をあらため、仕事と家庭生活を両立できる生き方を普及させる
4. 保育園や介護施設・病院等の福祉サービスを提供する施設の整備を進める
5. 特になし
6. その他(具体的に: _____)

子育て・教育についてお聞きします。

※お子さんをお持ちでない方もお答えください。

問7 あなたは、子どもの育て方について、どのように思いますか。(○は1つ)

1. 女の子は女らしく、男の子は男らしく育てたほうがよい
2. 男女の区別なく、同じように育てたほうがよい
3. どちらともいえない

問8 あなたは、子育てにおける父親と母親の役割について、どのように思いますか。
(○は1つ)

1. 子どものどの成長段階でも父親と母親の役割は同様にあり、協力して行うのがよい
2. 子どものどの成長段階でも子育ての中心となるのは母親だと思う
3. 子どものどの成長段階でも子育ての中心となるのは父親だと思う
4. 子どもが3歳頃までは、母親が子育ての中心となり、それ以降からは父親が子育てに関わるとよい
5. わからない
6. その他(具体的に: _____)

問9 あなたは、女性が安心して子どもを産み育てるために必要だと思うことは何ですか。
(○は3つまで)

1. 出産・育児に対する経済的な支援の拡充
2. 出産・子育て後に再就職しやすい制度づくり
3. 子育て中の柔軟な勤務形態の普及
4. 父親が子育てに十分かかわることができる職場環境の整備
5. 保育サービスの充実
6. 地区子育て支援センター事業や学童保育など地域の子育て支援の充実
7. 子育て中の親が相談・交流・情報交換できる場の提供
8. 子育て中の親のリフレッシュ支援
9. わからない
10. その他(具体的に: _____)

問10 あなたは、男性がより育児に参加していくために必要だと思うことは何ですか。
(○は3つまで)

1. 男性が育児休業制度を利用しやすくなること
2. 労働時間の短縮や在宅勤務、フレックスタイムの導入などがすすむこと
3. 男性のための育児講座を充実すること
4. 男性自身が育児に取り組む意識をもつこと
5. 子どもの病気や急な残業に対応できる保育施設・サービスが整備されること
6. 家族の間で育児について十分に話し合うこと
7. 男性の育児参加を妨げるような社会通念が変わること
8. わからない
9. その他(具体的に：)

※フレックスタイム

労働者が一定の定められた時間帯の中で労働の始業・就業時刻を自由に決定できる勤務時間制度をいいます。

問11 あなたは、男女平等の意識を育てるために、学校を中心とした教育の場ではどのようなことに力をいれるべきだと思いますか。(○は2つまで)

1. 生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を生かせるように配慮する
2. 異性を思いやる気持ちの大切さを教える心の教育を充実させる
3. 男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける
4. 性に対する正しい知識や性の尊厳、母性保護の重要性についての学習を推進する
5. 教科書などの、固定化された男女の役割や特性についての記述をなくす
6. 出席簿の順番や持ち物の色など、男女を分ける慣習をなくす
7. 教員や保護者に男女平等の研修を推進する
8. 管理職(校長や教頭)に女性を増やしていく
9. わからない
10. その他(具体的に：)

職場についてお聞きします。

問12 あなたは、女性が職業（仕事）を持つことについて、どのように思いますか。（○は1つ）

1. 女性は職業（仕事）を持たないほうがよい
2. 結婚するまでは職業（仕事）を持つほうがよい
3. 子どもができるまでは、職業（仕事）を持つほうがよい
4. 子どもができたら職業（仕事）をやめ、大きくなったら再び職業（仕事）を持つほうがよい
5. 子どもができて、ずっと職業（仕事）を続けるほうがよい
6. その他（具体的に： _____)

問13 あなたは、自分が職業を持つ場合に何が支障になると思いますか。（○は3つまで）

1. 募集採用の機会が少ない
2. 賃金が低い
3. 労働時間が長い
4. 休暇が取りにくい
5. 昇進昇格が遅い、期待できない
6. 管理職に登用されない
7. 中高年の従業員に対して、退職を促すような圧力がある
8. 教育訓練機会が少ないために、能力の向上が図りにくい
9. 仕事について上司や同僚の認識が低いため、その能力が正当に評価されない
10. 結婚や出産時に退職する慣習や圧力がある
11. 補助的な業務や雑用（お茶くみ等）が多い
12. 子育てや家事の負担が大きい
13. 特に不満はない
14. その他（具体的に： _____)

問14 あなたは、安心して働ける環境をつくるために、どのようなことが必要だと思いますか。（○は2つ）

1. 給料や仕事内容、昇進などの男女差を解消する
2. 職業（仕事）と家庭の両立に職場が理解し協力する
3. 研修の充実など能力向上のための環境を整備する
4. 家族がそれぞれの仕事について理解し協力する
5. 育児・介護休業制度を定着させる
6. 男性の育児・介護休業を取りやすくする
7. 女性の産前・産後・生理休暇、育児・介護休業を取りやすくする
8. 育児・保育に対する支援や施設、サービスを充実させる
9. 介護・看護に対する支援や施設、サービスを充実させる
10. 労働者に対する相談窓口などを設置する
11. 特にない
12. その他（具体的に： _____)

問15 職場におけるセクシャル・ハラスメント（セクハラ・性的いやがらせ）について次の中からあてはまるものを選んでください。（あてはまるものすべてに○）

1. 自分が直接経験したことがある
2. 同じ職場の女性で経験した人がある
3. 同じ職場の男性で経験した人がある
4. 自分の職場では経験した人はいないと思う
5. 自分や周りには、経験した人がいない
6. セクハラということば自体を知らない
7. その他（具体的に： _____）

問16 問15で「1」～「3」と答えた方にお聞きします。
セクハラを自分が経験した、または身近に当事者がいた場合、誰かに相談しましたか。
（あてはまるものすべてに○）

1. 会社の上司
2. 職場の同僚
3. 友人
4. 公的機関・会社の相談室等
5. 両親・その他の親族
6. 配偶者
7. 警察
8. 相談しなかった
9. その他（具体的に： _____）

問17 あなたは、セクハラに、どのような対策が必要だと思いますか。（○は2つまで）

1. 事業主が対策に取り組むこと
2. 相談機関を設置すること
3. 被害者のカウンセリングを進める
4. 法律的に規制を作ること
5. 一人ひとりが服装や態度に気をつける
6. 被害者が毅然と対応する
7. 一人ひとりが団結して抗議する
8. 一人ひとりが自分の行動に自覚をもつ
9. 特にない
10. その他（具体的に： _____）

問18 あなたは、【ワーク・ライフ・バランス】について、知っていますか。（○は1つ）

1. まったく知らない
2. ことばは聞いたことがある
3. ことばの内容を理解している



問19 生活の中での、仕事・家事（育児）・プライベートな時間（趣味など）の優先度について、あなたの【希望】の優先度と、【現実】としての優先度をお答えください。
（【希望】と【現実】それぞれに1つ○）

※専業主婦など仕事についていない方は、家事とプライベートの関係についてお答えください。

【希望】

- | | | |
|----------------|--------------------|----------------|
| 1. 仕事優先 | 2. 家事優先 | 3. プライベートな時間優先 |
| 4. 仕事と家事優先 | 5. 仕事とプライベート優先 | |
| 6. 家事とプライベート優先 | 7. 仕事・家事・プライベートを両立 | |

【現実】

- | | | |
|----------------|--------------------|----------------|
| 1. 仕事優先 | 2. 家事優先 | 3. プライベートな時間優先 |
| 4. 仕事と家事優先 | 5. 仕事とプライベート優先 | |
| 6. 家事とプライベート優先 | 7. 仕事・家事・プライベートを両立 | |

地域や社会との関わり方についてお聞きします。

問20 あなたが住んでいる地域では、地域活動の役割分担はどのようになっていますか。
（それぞれに1つ○）

	主に女性が担当	女性が多いが男性も分担	男性と女性が同程度	男性が多いが女性も分担	主に男性が担当	該当なし
①地域役員や催しものの企画、決定	1	2	3	4	5	6
②集会などの運営、取り仕切り	1	2	3	4	5	6
③集会などでのお茶くみ、調理	1	2	3	4	5	6
④祭りや葬儀の運営、取り仕切り	1	2	3	4	5	6
⑤PTAや保護者会の運営、取り仕切り	1	2	3	4	5	6
⑥会長などの役職	1	2	3	4	5	6

問21 あなたは、どのような地域活動をしていますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|---------------------------|--------------------|
| 1. 自治会、町内会 | 2. 女性団体 |
| 3. P T A活動 | 4. 子ども会・青少年活動 |
| 5. 老人クラブ活動 | 6. ボランティアなどの社会奉仕活動 |
| 7. 消費者運動（環境、食の安全などに関する活動） | |
| 8. 文化活動（趣味・教養） | |
| 9. スポーツ・レクリエーション活動 | |
| 10. 子育て支援活動（グループ活動含む） | |
| 11. 活動していない | |
| 12. その他（具体的に： _____) | |

問22 問21で「11. 活動していない」と答えた方にお聞きします。

あなたが地域活動に参加していない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|------------------------|------------------|
| 1. 子どもの世話や老人の介護 | 2. 仕事や家事が忙しい |
| 3. 経済的な余裕がない | 4. 配偶者や家族の理解がない |
| 5. 責任ある立場に置かれることに抵抗がある | 6. 近所の人々の目がある |
| 7. 自分の性格に合わない | 8. 活動する仲間がいない |
| 9. 活動する施設がない | 10. 必要な情報が不足している |
| 11. 人間関係がわずらわしい | 12. 特に理由はない |
| 13. その他（具体的に： _____) | |

問23 あなたは、今後、どのような地域活動をしたいと思いますか。

（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|---------------------------|--------------------|
| 1. 自治会、町内会 | 2. 女性団体 |
| 3. P T A活動 | 4. 子ども会・青少年活動 |
| 5. 老人クラブ活動 | 6. ボランティアなどの社会奉仕活動 |
| 7. 消費者運動（環境、食の安全などに関する活動） | |
| 8. 文化活動（趣味・教養） | |
| 9. スポーツ・レクリエーション活動 | |
| 10. 子育て支援活動（グループ活動含む） | |
| 11. 活動したいとは思わない | |
| 12. その他（具体的に： _____) | |

高齢化社会や介護についてお聞きします。

問24 現在、家庭での高齢者の介護や病人の看護は、多くの場合女性がしているといわれています。あなたはこのことについて、どう思いますか。(○は1つ)

1. 当然だと思う
2. 仕方がないと思う
3. 男性と女性が協力して介護・看護をするべきだと思う
4. 男性が中心に介護・看護をするべきだと思う
5. その他(具体的に: _____)

問25 あなたは、ご自分の老後を考えたとき、何か心配事や不安がありますか。主なものをお答えください。(○は1つ)

1. 配偶者に先立たれること
2. 自分自身の健康のこと
3. 生活費のこと
4. 介護や看護をしてくれる人がいないこと
5. 安心して住める家がないこと
6. 自分に合った仕事や趣味がないこと
7. 子どもが同居してくれるかどうかわからないこと
8. 特に不安を感じたことがない
9. その他(具体的に: _____)

問26 あなたご自身に、介護が必要となったときは身の回りの世話を、どのようにしたいと思いますか。(○は1つ)

1. 配偶者が世話をする
2. 娘や息子の配偶者など女性の家族が世話をする
3. 息子などの男性の家族が世話をする
4. 家族全員で世話をする
5. 介護保険制度などのサービスを利用する
6. 介護保険施設(特別養護老人ホームなど)を利用する
7. わからない
8. その他(具体的に: _____)



DV（ドメスティック・バイオレンス）についてお聞きします。

問27 あなたは、人権が侵害されるもしくは尊重されていないと感じるのはどのような場合だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 売春・買春行為
2. 夫婦間・恋人同士の身体的・精神的な暴力
3. 職場・学校でのセクハラ（性的いやがらせ）
4. 容ぼう・容姿を競うミスコンテスト
5. ストーカー（つきまとい行為）や痴漢行為
6. 社会通念上、女性は男性の後に従うべきとされていること
7. 民法上の制度（夫婦同姓・再婚禁止期間・子どもの認知）
8. 税制上の配偶者控除制度や、世帯単位の課税非課税の考え方
9. 特にない
10. その他（具体的に： _____）

問28 DV（ドメスティック・バイオレンス）について教えてください。（あてはまるものすべてに○）

1. 何らかの暴力をしたことがある
2. 何らかの暴力を受けたことがある
3. 身近な人から相談を受けたことがある
4. テレビや新聞で社会問題になっていることを知っている
5. DVが人権侵害であることを知っている
6. その他（具体的に： _____）

問29 問28で「2. 何らかの暴力を受けたことがある」と答えた方にお聞きします。
あなたはどこかに相談したり、だれかに打ち明けたりしましたか。（○は1つ）

1. 相談した
2. 相談しなかった

問30 問29で「2. 相談しなかった」と答えた方にお聞きします。
 あなたが相談しなかった理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○は）

1. どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから
2. 恥ずかしくてだれにも言えなかったから
3. 相談してもむだだと思ったから
4. 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから
5. 加害者に「誰にも言うな」とおどされたから
6. 自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
7. 世間体が悪いと思ったから
8. 他人を巻き込みたくなかったから
9. 他人に知られると、これまでどおりの付き合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思ったから
10. 自分にも悪いところがあると思ったから
11. 相談するほどのことではないと思ったから
12. その他（具体的に： _____)

問31 問28で「2. 何らかの暴力を受けたことがある」と答えた方にお聞きします。
 あなたはどのような暴力を受けましたか。またその頻度はどの程度ですか。（それぞれ1つに○）

	何度もあった	1、2度あった
①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する行為を受けた	1	2
②人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは恐怖を感じるような脅迫やおどしを受けた	1	2
③いやがっているのに性的な行為を強要された	1	2

問32 あなたは、DV被害を受けた人に対する公的な相談や援助体制が必要だと思いますか。(○は1つ)

1. 必要である 2. 特に必要ない 3. わからない

問33 問32で「1. 必要である」と答えた方にお聞きします。
あなたは、どのような相談や支援が必要だと思いますか。(○は2つまで)

1. 家庭の中のことでも気兼ねなくうちあけて相談できる窓口
2. 被害者・加害者の相談にいつでも電話で対応できる相談窓口
3. 専門家同士の連携・地域ネットワーク
4. 被害から逃れるための緊急一時保護施設(シェルター)などの設置
5. 法的な手続き(被害届や保護命令等)について詳しく教えてくれる窓口
6. 身近な交番での適切な対応
7. DVに対する市民への啓発
8. 被害から逃れた方が自立して生活できるような、経済的支援、就業支援等
9. 加害者に対するカウンセリングやサポート
10. 特にない
11. その他(具体的に: _____)

問34 あなたは、「交際相手からの暴力」(いわゆる「デートDV」)について、知っていますか。(○は1つ)

1. 言葉も、その内容も知っている
2. 言葉があることは知っているが、内容はよく知らない
3. 言葉があることを知らなかった



問35 今後、男女がともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりをあらためる
2. 仕事中心という社会全体のしきみをあらためる
3. 社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること
4. 労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
5. 男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと
6. 研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること
7. 誰もが子育てや介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）作りをすすめること
8. 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、相談しやすい窓口を設けること
9. 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること
10. 子どもが将来家事などを男女で分担するような子育てや教育をする
11. 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること
12. 妻が夫に経済力や出世を求めない
13. 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
14. 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
15. 女性が経済的・精神的に自立する
16. 誰もが男女共同参画について関心をもつ
17. 特に必要なことはない
18. その他（具体的に：

問36 あなたは、男女平等社会の実現を図るため、今後の岡崎市に期待することは何ですか。（○は3つまで）

1. 平等意識を育てる学校教育の充実
2. 男女平等への理解を深めるための学習機会の促進（生涯学習）
3. 女性問題に関する情報提供、交流・相談・苦情処理・研究などの充実
4. 女性の職業教育・訓練機会の充実
5. 女性の就労機会や労働条件の男女格差を是正するための働きかけ
6. 育児・保育施設や支援事業の充実
7. 行政や民間での女性の積極的な登用
8. 行政の政策決定や審議会への女性の参画促進
9. 高齢者や病人の在宅介護サービスや施設または、福祉施策の充実
10. 女性問題に関する国際的な交流・情報収集の促進
11. 市内の女性団体・グループとその活動内容の情報ネットワークづくり
12. ひとり親家庭などへの援助や福祉対策
13. わからない
14. その他（具体的に： _____)

